no.455
1993年 8/15
ゲームマシン
アミューズメント通信
AUGUST 15, 1993

GAME MACHINE
Game Machine Magazine is published twice monthly on the 1st and 15th of the month by Amusement Press, Inc., Wakasugi Bldg., 18-2, Doyamacho, Kita-ku, Osaka, 530 Japan. Subscription rate: Overseas (air mail) - US$ 180.00 / year.

毎月2回(1日・15日)発行 昭和56年10月17日第3種郵便物認可 発行所 株式会社 アミューズメント通信社 〒530大阪市北区堂山町18－2(若杉ビル) ☎06(314)0309 FAX06(314)3821 定価400円 年間購読料9,880円(送料共、消費税込)

札幌にAMビル「スガイディノス」完成

最大級の屋内ロケ

6,600㎡、須貝興行が風営対象外で

北海道の最大手オペレーターである須貝興行㈱（本社札幌、鈴木保男社長）は、札幌市白石区にかねてより建設を進めてきた同社アミューズメントビル「スガイディノス」がこのほど完成、七月十七日オープンさせ話題となっている。

同ビルは地下鉄白石駅のすぐ近くにあり、同社が旧病院跡地を買い取って建設したもので地下一階、地上三階建て。一―二階がAM機フロア「ディノスパーク」で、一フロアの面積が約三千三百平方㍍、二フロアで計六千六百平方㍍という国内最大規模の屋内AMロケとなる。なお同ビルは風営禁止区域にあるため、同ロケは風営八号対象外となる内容で運営。三階は四十レーンのボウリング場、地下と屋上は駐車場になっている。

写真は「スガイディノス」内のAM機フロア「ディノスパーク」のようす

「ディノスパーク」にはアトラクションとしてトーゴ「ロックンロール」、イタリアのSDC社「ミュージックエキスプレス」、須貝興行の企画により松下電器産業と乃村工芸が製作したお化け屋敷およびパターゴルフ施設、ナムコのバッテリーカー施設と占いの館があり、七月末にはセガ社「AS―1」も設置される。ゲーム機はAMゲーム機（大型中心）とカーニバル機が計約百七十台設置されており、メダルゲーム機は一台もない。

同ビル全体の総事業費は土地代も含め約七十億円で、同社では年間二十億円の売上げを目標としており、うち四分の三を「ディノスパーク」の売上げとして見込んでいる。

オープン当日、同社の主な取引先など関係者ら約百五十人が集まり、一階フロアで竣工披露パーティーが開かれた。

挨拶に立った同社の須貝富安会長は、集まった関係者の協力により同ビルが完成したと感謝し、「本日は関係者だけの集まりであり、仲間が協力し合ってオープンを迎えることができたものと思っている。これからも仲間意識を大切にしながら事業を進めていきたい」と語った。来ひんとして白石区の西村公男区長、北洋銀行の水戸重光専務、五洋建設㈱の伊原章五副社長からそれぞれ祝辞があり、日本ブランズウィック㈱の橋本芳博社長が中締めを行なった。

この後同ビル前で須貝会長と鈴木社長、同ビルの熊谷正志総支配人を中心に来ひん八氏を含めた計十一人によりテープカットが行なわれた。同社では事前に地元新聞や電車内に広告を出すなど大々的にPRしていたため、朝早くから入口の前に若者たちの列が出来るほど関心を集めた。また地元テレビやラジオ放送局、新聞社など計十八社の報道関係者が取材に訪れるほど、北海道では話題の施設として注目された。同社によると、オープン日と翌日の日曜の二日間で三万人もの入場者があり「ビル内は終日大盛況だった」そうだ。

なお同社は北海道内でゲーム場（十数店）と映画館（二十数館）、ボウリング場（十数ヵ所）を三本柱として、カラオケルームやビリヤードなど娯楽事業を多角的に展開してきており、とくに二年前からゲーム場部門の拡充に力を入れている（同ロケについては追って詳報の予定）。

上の写真は（左から）熊谷支配人、須貝会長、鈴木社長。下は建物外観

セガ社がVRゲーム機で

英国WI社と開発提携

CG基板「モデル1」使った高レベル機

㈱セガ・エンタープライゼス（本社東京、中山隼雄社長）と英国のダブリュー・インダストリーズ社（WI、本社レスター市、ジョン・ウォルダン社長）は六月三十日、高度なVR（バーチャルリアリティ）ゲーム機を共同開発することで合意したことを明らかにした。

しかしセガ社では、両社による共同開発は未定の部分が含まれており、それ自体がテストケースになるものとしており、慎重な姿勢を示している。

WI社は九一年三月に英国で、世界初の業務用VRゲーム機「バーチャリティ」を披露、各方面から注目された。これは液晶画面を含むヘッド・マウンテッド・ディスプレイ（HMD）を採用した本格的VRゲーム機で、プレイヤーはHMDを頭部に装着、手元のレバー／ボタンを操作し、頭部を動かしたりしながら画面上の立体感のゲームを楽しむことができる。

日本でWI社「バーチャリティ」は九一年六月にナムコがSD（シットダウン）型を四台購入、同社ロケで試験的に利用して、大きな関心を集めた。九一年十一月に電通プロックスが独占販売権を取得、CS（サイバースペース）型も導入したが、展示会出品ぐらいでほとんど利用されず、タイトーが電通プロックスからCS型を二台借りて九二年十一月から二ヵ月間ロケテストした程度だった。今年五月に、業界外のエンパが電通プロックスに代わり独占販売権を取得した。しかしすでに「バーチャリティ」は古くて高い機械と見なされているもようだ。

実際日本には導入されていないが、WI社製以外に九二年十月にはアルタネイト・ワールド・テクノロジー（AWT）社「バーチャルリアリティ」が、また今年三月にはVR8社「バーチャルコンバット」など、はるかに使いやすく低価格の米国製VRゲーム機が開発されており、さらにこの傾向は続くと見られている。従って、WI社はより高度な次元のビジネスを模索する必要があった。

一方、セガ社は家庭用TVゲーム機向けのHMD採用VRゲームの開発を進めており（本号18めんの記事参照）、業務用TVゲーム機では「バーチャレーシング」で使っているCG（コンピューターグラフィックス）基板「モデル1」（AOUエキスポ93では「モデル2」の画面を紹介）など開発を進めてきている。そこでもっと高度で本格的なVRゲーム機の開発をどう進めるか、というところで、ひとつの方法としてWI社との技術提携を選んだことになるが、WI社「バーチャリティ」よりはるかに高度なレベルのものを狙っているとのこと。

セガ社によると、今回の技術提携に基づく製品化は、早くても年末までかかるが、来年のAOUエキスポ（二月二十二―二十三日）には披露できる。その第一号機については、セガ社のゲームコンセプトに基づき両社がゲームソフトを共同開発するが、CG基板には「モデル1」を採用、セガ社が製造、販売する（構想では年間二千台ほど出荷する）。しかし、使用するHMDがWI社製になるか、セガ社製になるかは未定で、これらを含めた話合いが続いているとのこと。いずれのHMDでも従来型とは異なり、はるかに使いやすいものになるもようだ。

第一号機以後の製品についてで両社の取り決めも決まっていない。これは第一号機開発それ自体がテストケースである、という認識で一致しているためとされている。

セガ本社にて（左から）WI社ウォルダン社長、セガ社中山社長

セガ社の新副社長・専務会見

経営首脳の強化として

入交副社長ら新ビジネスに意欲示す

㈱セガ・エンタープライゼスは六月二十九日午後、東京本社会議室で、話題を集めた新任重役三名の就任を発表、会見した。これにテレビ局五社を含む六十社の報道機関が詰めかけた。中村俊一常務が進行役となった。

中山隼雄社長は、「三年前は売上高七百億円、従業員千七百人だったのが、前期では三千五百億円、三千五百名になった。増えた社員はほとんど若手で、中間管理職は二百人ほど。売上高五―六千億円をめざすには、トップマネジメント（経営首脳）を強化しなければならないと考え、二、三年前から業容拡大の戦略を立てられる仲間を探してきた。三人同時に加わったのは偶然だ。入交副社長には研究開発と製造部門、藤本副社長には管理部門、木下専務には営業部門をそれぞれ統括してもらう。駒井徳造副社長は数多い子会社と本社とのアライアンス（連携）をやってもらう」と語った。

入交昭一郎副社長は、「三十年ホンダにいたが昨年体調が悪くなり副社長を辞任した。静養して今春体に自信も出てきたので、実業界でもうひと仕事、自分がわくわくできる仕事をやってみたいと考えた。二ヵ月ほど前中山社長と食事をし、誘いを受けた後、自分でも調べ、人生を賭ける価値のありそうな仕事と思えるようになり、五月末私からお願いした。自動車とAMはマーケット、テクノロジーが異なるが、ハード／ソフトとも開発、生産、販売、サービスという基本は同じと思う。経験を生かし貢献したい」と述べた。

藤本敬三副社長は、「ダイエーに二十八年いた。五十歳を過ぎれば新しい生き方をしてみたいと考えていた。中山社長に会い、仕事を中心とした人生観を聞くうち、今までの自分のプログラムよりもっと大きな舞台で仕事ができそうだと感じ、私からお願いした。決意の第一の理由は、仕事が新しく、一歩一歩が未知との遭遇になり、一―三年後が明確に見えないエキサイティングなところに魅かれたことだ。第二にマネジメントの仕組みが独特で、上から下まで仕事を軸につながっており激しい議論をしている。派閥も人脈もなくすっきりしている。マネジメントの新しいオーラ（電気）のようなものを感じたことである。スカウトされたのではなく、ダイエーを辞めたいきさつとは別にセガに来たわけで、貢献したい」と語った。

木下紘治専務は、「住友銀行に二十八年間いた。その間なんども転動しており、今回も転勤したようなものだが、今回はずっとこの仕事を続けるということだ。これまでお金と人間の関わりが仕事だったが、これにモノが加わるとこんなに楽しいのか、ということが勉強していく中で分かった。営業部門で人との関わりも持てるので楽しみだ」と述べた。

記者からの質問に対して、セガ社に魅かれた理由について、入交副社長は、「AM産業は三十年前の自動車産業と同じように見える。マーケットは無限に広がり、テクノロジーは半導体チップの進化が止まっていないし、CG（コンピューターグラフィックス）やVR（バーチャルリアリティ）はこれから本格化すると言える。AM産業のこれからの約十年間はエキサイティングで、その反面リスキーな時期だと思う」と述べ、藤本副社長は、「セガ社は何々業、何々屋という規定ができない広がりを持った事業を内包している。三、五年後が推定できないフレキシビリティ（しなやかさ）がある。ハイテクノロジーで心に訴える産業というところが、心に情報、刺激を伝えるビジネスとして大きな可能性を持っている」と答えた。

トップクラスの役員を増した理由について、中山社長は、「コンシューマー、業務用、AM施設運営の三つが柱だが、これらは大きく変化していく。コンシューマーではCATVで配信するようになり、マルチメディア時代に伴いゲームも変わっていく。これらに対応せざるをえない。また会社はある程度大きくなると一人ではトップは勤まらない。どうしても分担して指揮できる層を厚くしなければならない。今回の異動は極めて自然なことだった」と答えた。

「社長後継者はだれか」という質問について、中山社長は、「この三人の中から選ぶというわけではない。これまでの経営陣の中にも能力を伸ばす人もいるだろうし、そう期待する。幅広い選択肢の中から時期が来たら選ぶだけのこと。今はまったく決まっていない」と答えた。「セガ社の社長になるという気があるか」との質問に、入交氏ら三名は「まったく考えていない」と答えた。

「セガ社の体質改善をどうするか」という質問に、入交副社長は、「企業が伸びている内は管理は強くないほうがいい。セガ社は伸ばし、突っ走ったほうがよい。そうしないとテクノロジー、マーケットの変化についていけないし、伸びが止まる。変化する時期は当然ある。そのときは業界、マーケット、テクノロジーの進歩を見極めながら将来を考えていきたい」と答えた。

写真はいずれも記者会見で（左から）木下氏、入交氏、中山氏、藤本氏

景品提供機問題に対応

機種別資料作成の方針

JAMMA緊急理事会でAM機部会案了承

㈳日本アミューズメントマシン工業協会（事務局東京、中山隼雄会長、JAMMA）は七月九日、新しい事務所で緊急理事会を開き、警察庁から求められている景品提供機に関する資料作成について検討した。AOUから荒井房義専務らも出席して進めた。

パチンコ／パチスロを改造し景品が出るよう改造した遊技設備の広告に端を発した景品提供機問題については、JAMMAでは主にAM機部会（長谷川桂祐部会長）が担当しており、同部会が六月三十日にタイトー本社で開いた第七回会合で、今回の資料作成の方針を決めたとのこと。

それによるとAM機部会と健全娯楽推進委員会のメンバーらが警察庁・生活保安課に対し、新風営法以前のプライズマシンに関する資料を示したところ、当局からあらゆる景品提供機についての資料提出を求められた。当局ではそれを検討、個別に容認（放任）できるかどうか、技術介入性と偶然性の面から判別してみる（旧風営法の下でのいわゆる既得権は認められない）、との意向を示したもようだ。AM機部会では、資料作成は大変な作業になるとして理事会に諮ることにした。

JAMMA理事会では、「偶然の遊技に射幸心をあおる金品の提供があればギャンブルだが、少額景品で射幸心をあおるとは思えない」という考えが強く、なぜ今回これほどまでに問題化したのかよく分からない、という受けとめかたが多い。しかし対応を誤ると、「七号営業」機種の改造機にとどまらず、エスカレートするおそれもある。

こうした状況からJAMMAとして基本的なスタンスは、市販価格五百円以下などの自主規制を守ることにある、との考えが大半を占めた。しかし、警察庁との話し合いの中で、「技術介入の余地のない偶然の遊技で景品を提供してはならない」ことは当然として、資料提出を求めている以上応じるしかない、との結論に達した。事務局で様式を作り、会員に説明会（七月二十三日）を開き、各社から資料を集めることが了承された。

いわゆる「景品の取扱いに関する綱領」改正については、七月八日の健全娯楽推進委員会がまとめた一部改正案をそのまま了承した（本号4めん記事参照）。同「綱領」は業界五団体の承認を得ていることから、一部改正についても同様の承認を得てから配布したい、としている。

以上のほか、バンプレストが景品提供機問題に関して五月以来二度にわたり、JAMMAに対して「重大問題にもかかわらず、自粛の通知だけで済ませるのはおかしい」などの内容の申し入れ書が提出されていることが明らかになった。理事会ではその対応について、なんら触れられていないが、一度回答、また近く回答書を送るなどするもようだ。

特許・実用新案　出願公告・公開

（6月29日～7月12日）

特許庁に出願された特許および実用新案の公告ないし公開の最新分で、AM業界関連のものは次のとおり。記事内容は、公告／公開の日付、発明／考案の名称、出願人、公告／公開番号、出願番号の順に掲載。なお㊔は審査請求のあったものを示している。具体的な内容については、各地の発明協会などにお問合わせ下さい。

特許出願公開

七月八日＝「スロットマシン」、㈱ユニバーサル（栃木）、5－45274、2－16443。

実用新案出願公開

六月二十九日＝「反射神経ゲーム機」、㈱タイトー（東京）、5－25671、63－100777。「釣りゲーム機」、㈱フレックス（東京）、5－25672、63－168537。

特許出願公告

六月二十九日＝「アブソリュートエンコーダ付スロットマシーン」、多摩川精機㈱（東京）、5－161737、3－327565。「テレビゲーム機用アダプター」、山岡俊秀（東京）、5－161761。3－360878。「軌道走行型観覧装置」、㈱トーゴ（東京）、5－161762、3－330361。「疑似潜水装置」、㈱海中居住研究（東京）、5－161763、3－352791。

七月二日＝「スロットマシンのメダル受付装置」、㈱エル・アイ・シー（大阪）、5－168744、3－343734。「スロットマシンの液晶盤面構造」、㈱エース電研（東京）、5－168745、3－345358。「ボール発射遊戯機の球供給装置」、㈱ホープ（東京）、5－168771、3－340781。

実用新案出願公告

七月九日＝「対戦型ゲーム装置」、㈱ナムコ（東京）、5－51394、3－102465。「球発射ゲーム機」、㈱岡本製作所（大阪）、5－51395㊔、3－16112。「発射と接収器をもつフライパン玩具」、鄭正傅（台湾）、5－51396、3－111069。「マイクロコンピュータを備えたゲーム用アダプタ」、㈱エスパル（東京）、5－51397、3－114627。

旭精工のホッパー偽造した

台湾コピーヤーが謝罪

昨年末に摘発、5月に賠償含め和解

旭精工のホッパー「WH－1」

旭精工㈱（本社東京、安部寛社長）は、同社製ホッパー（硬貨払い出し機）を無断複製していた台湾の上陽工業股份有限公司（本社高雄、陳志南社長）に対する法的手続きを進めていたが、このほど上陽工業が全面的に謝罪して解決した。

旭精工・総務課の新井信昭氏が七月五日に明らかにしたもので、それによると上陽工業は、旭精工が台湾の専利法に基づく特許を持っているホッパー「WH―1」をそっくり無断でコピーしていた。旭精工では台湾の取引先から情報を入手後、調査を進め、九一年十月現地でコピー品をサンプルとして入手した。現地の弁護士と相談し、民事では解決が難しく刑事手続きのほうが効果的だということで、九二年十二月二十三日に特許権侵害で告訴した。

これにより捜査当局による捜索が昨年末に上陽工業の工場で行なわれ、証拠品が押収された。この時、工場にはシリアルナンバーのついたステッカーが多数発見された。生産数量は明らかでないが、香港経由で世界各国に輸出していたらしい。WH―1型ホッパーの標準小売り価格は一万五千円だが、上陽工業のコピー品には約九千円の値段が付けられていた。摘発に伴い、旭精工は民事訴訟も提起した。

上陽工業は二月二十三日に起訴されたが、有罪が明らかなことから一転、五月十八日に旭精工は和解に応じ告訴を取下げて、この事件を終了させた。和解条件は、①上陽工業が持っていたコピー品製造用の金型を廃棄処分する（五月十九日に実行された）、②上陽工業は損害賠償金として百五十万円を旭精工に支払う、③上陽工業は新聞に謝罪広告を掲載する（五月二十四日付の工商日報に掲載された）――というもの。

新井氏は、上陽工業に対する実質的な処罰が行なわれたことから、刑事告訴を取下げた、と説明している。

旭精工では九一年に米国ネバダ地区の連邦裁判所で、同社ホッパーの無断コピー品を製造、販売していた台湾の元王実業社を民事訴訟で訴え、元王実業社が謝罪する内容で和解している。今回のコピー対策手続きは台湾で行なわれ、しかも主に刑事手続きに重点を置いて進められた。まだ台湾のコピーヤーが同様の無断コピー品を製造などすることが予想されるが、同社では今回以上に厳しい方針で対処することになる、と説明している。

なお旭精工のホッパー「WH―1」は自販機、券売機、両替機などに使われており、これまで約百万台も出荷しているヒット商品のひとつ。

上陽工業の工場でコピー品製造用の金型を廃棄処分しているようす

セガ社テーマパーク

横浜にも94年7月開設

山下公園の隣、広い敷地に自社建設

㈱セガ・エンタープライゼス（本社東京、中山隼雄社長）は、九四年七月、横浜市内に屋内型テーマパーク「横浜新山下町ハイテク・テーマパーク」（仮称）をオープンする、と六月二十五日付で発表した。同社オリジナル遊園施設を多く採用する予定。

セガ社では昨年九月、ハイテク・テーマパークの全国展開計画を明らかにしており、まず大阪・南港に出来るアジア太平洋トレードセンター（ATC）内に、セガ社が提唱するハイテク・テーマパークのモデルとなる屋内遊園地「テラ」（仮称、四―五階の約五千平方㍍に四つのテーマゾーン）が九四年春にも完成する予定。ただ「テラ」の場合、テナントとして建物内を利用するもので制約があるが、横浜の場合は自社建築するので、それぞれの遊園施設に合わせて設計できる点が大きく異なる。

「横浜ハイテク・テーマパーク」は、横浜の山下公園に隣接する宇徳運輸の倉庫跡地（敷地面積一万千八百八十平方㍍）を、地主の宇徳運輸から賃借して開設する。レストラン二店（百席と二百五十席）、ファーストフード一店、それに二百八十台分の駐車場を敷地内に設ける。

遊園地部分は二フロアで、延べ床面積は七千二百六十平方㍍。セガ社としては初めて建物も自社で建築する。設備投資額は七十億円。年間百二十万人の入場、三十六億円の売上げを見込む。

ここでのテーマは、天才科学者「ドクター・クロノ」が世界を支配するため設けた秘密の研究所が生んだ不思議な混とん空間、という設定。床面積千二百平方㍍を占めるダークライド、三十二人収容の大型映像シミュレーター「AS―1000」（仮称）など新型アトラクション七種で充実させるが、同社ではこれらを含め現在十五種のアトラクションを開発中だ。

セガ社では七千―一万平方㍍級のハイテク・テーマパークを、都道府県に一ヵ所のペースで、九七年度までに全国五十ヵ所に開設する構想を進めており、その具体例として、大阪と横浜の二ヵ所の計画が示されたことになる。

スペインでTV機開発

新星ガエルコ社

「ワールドラリー」米日でも

スペインのTVゲーム開発メーカー、ガエルコ社（本社バルセロナ、フリアン・バルデビラ部長）のドライブゲーム・キット「ワールドラリー」が欧州だけでなく、米国と日本で発売されることになり注目されている。

ガエルコ社は二年ほど前に発足した基板タイプのTVゲーム開発メーカーで、これ以上詳しいことは日本での取引先であるシグマでも分からないとのこと。昨年「スプラッシュ」、「サンダートップ」など出荷した後、今年に入って「スカッシュ」（シグマでは約七百枚輸入し、販売したとのこと）に続き、五月ごろ「ワールドラリー」を出荷した。

「ワールドラリー」は基板タイプのTVゲームとしては出来がよく、米国ではアタリゲームズ社がガエルコ社からライセンスを得て発売することになった。これはキット販売で、ハンドル、シフト、アクセルなどが含まれている。ガエルコ社製品は欧州市場しか出回っていなかったが、米国で初めて正式に発売されることになる。

日本ではシグマが「スカッシュ」に引続き、「ワールドラリー」を発売することが決まっている（本号「話題のマシン」を参照）。

NMK

琴寄社長の夫人が死去

琴寄則子さん（ことより・のりこ＝琴寄幸雄㈱エヌエムケイ社長の妻）六月二十六日午前三時二十一分、胃がんのため埼玉県越谷市の市川胃腸科外科病院で死去、三十八歳。自宅は越谷市花田五の十九。告別式は二十八日午後一時半から越谷市花田五丁目自治会館で行なわれた。喪主は夫・幸雄（ゆきお）氏。

大分「ハーモニーランド」

入場者数が半減

観覧車など遊園施設追加

テーマパーク「ハーモニーランド」（大分県日出町）の九二年度入場者数、売上高が前年に比べ五割近く落ち込んでいることが、六月三〇日に開かれた㈱ハーモニーランド（辻信太郎社長）の定時株主総会を通じて明らかになった。

同園はリゾート法に基づく「別府くじゅうリゾート構想」の一環として、大分県と日出町、そして「ピューロランド」で知られる㈱サンリオの三者が第三セクター方式で建設、運営しているもの。九一年四月にオープン、九二年三月期の入場者数は約百万人と人気を集めたが、九三年四月期は四九％減の五十万六千人にとどまった。売上高も四九％減の二十一億二千六百万円だった。

売上高構成比はチケット四二％、商品三四％、飲食一三％、その他一一％で、前期とほとんど変化ない。売上高大幅減少のため経常損失二十五億千三百万円、当期損失二十四億六千万円を計上。前期からの繰越損失を加え、未処理損失は四十六億四千八百万円となった。

このため同園では昨年十一月に開発計画を発表、今年七月二十一日までに直径五十五㍍の大観覧車やパイレーツ「ツインドラゴン」、ミニローラーコースターなど遊園施設を追加充実させることで、リピーター確保を図るとしている。

JAPEA理事会

2社退会を了承

安全対策委員長異動も

全日本遊園施設協会（JAPEA、山田三郎会長）は五月二十七日の通常総会の直前、第六十五回理事会を開催、正会員二社の退会を了承した。

退会したのは新明和エンジニアリング㈱（本社東京、才川至孝社長）と㈱リッツ・ファンタジー（本社大阪、木村律子社長）。うち新明和エンジニアリングは、系列会社の㈱明和工務店（本社神戸、西村量夫社長）が昨年六月に入会していることに伴うもの。

安全対策委員会の委員長だった新明和エンジニアリングの池田享一氏の退任に伴い、新たに則岡安夫氏（豊永産業㈱）を委員長に決めた、との報告があり了承された。また同委員会で「遊戯施設運行管理マニュアル」のうち、「遊戯施設の機種別維持・運行管理対策」で新たに「ゴーカート」と「トップスインガー」を加えることを決めており、それを了承した。

その他通常総会提出議案の最終チェックを行ない、予決算案の一部を改めた。

景品提供機に関して
AOUが緊急自主規制
第13回理事会で採択、名称統一も確認

㈳全日本アミューズメント施設営業者協会連合会（事務局東京、梅原靖三会長、ＡＯＵ）は七月七日、東京・神田のＹＭＣＡホテルで第十三回理事会を開き、景品提供機問題に対応した自主規制を緊急に決めた。

これは景品提供機について警察庁が規制強化の方向にあるとの危機感から、通常総会に伴う議論、法務委員会での原案作成などを経て、景品提供機についての緊急自主規制の実施を決めたもの。提示された自主規制案（左に掲げた）をそのまま決定し、各会員（地方協会）はこの自主規制が守られているかどうか、できるだけ巡回、チェックすることなども了承した。

議論の中ではカラオケボックス営業の自主規制（本紙前号既報）が例に出され、業者側が危機感を持ってうまく対応したとされている。なおＪＡＭＭＡ、ＳＣ遊園とも協議するので、一部変更はありうるとしている。

なお警察庁とは、①「八号営業」でのプリペイドカード採用状況の調査依頼があり、使用店の数など調査中だ、②先に提出した要望事項について、各県警に問い合わせ中であり、まとまればＡＯＵと話し合う予定、などの報告があった。

その他の議案では「まず各地方協会の名称をアミューズメント施設営業者協会に統一する」ことが決まっていることが改めて確認された（事業計画に含まれており、通常総会で承認された）。しかし、「分かりにくい。もっと親しみのある名称が考えられないか」という意見もあり、梅原会長は「将来、できることなら考えたい」と答えた。

風俗営業の申請などに伴う添付書類の簡素化について報告があった。またＡＯＵ事務局を神田須田町に十一月にも移転することが了承された。

研修委員会では新たに管理者講習（風営法でいう管理者講習とはまったく別の内容で、ロケーション管理をテーマとするもの。仮称）を検討しており、九月中旬、北関東で開催するとのこと。また、北関東地区協議会では、先ほど過当競争防止のために大手と中小オペレーターの話し合いが行なわれたとのこと。過当競争防止のための協定が可能かどうか、運営委員会で検討する。

景品提供機の自主規制案（九三年七月七日、ＡＯＵ理事会）

1　第七号営業（パチンコ・パチスロ等）に使用されるか又は使用された遊技機を転用して、景品が提供される機構を有する機種に関しては、今後新たに購入、設置しない。

2　平成二年十二月作成の、五団体による「景品提供を行う遊技機における景品の取扱いに関する綱領」を再確認する。

3　前記綱領に逸脱していると判断する機種に関しては、今後新たに購入、設置しない。

4　一つの店舗に景品提供機を、過度に設置、運営しない。

上の写真はＡＯＵ第13回理事会（７月７日、東京）のようす

ＪＡＭＭＡ健娯委
自主規制改正案
不良景品の例示を追加

ＪＡＭＭＡの健全娯楽推進委員会（金沢義秋委員長）は七月八日、東京・霞が関の霞山会館で第六十四回会合を開き、「八号営業」に関連する遊技設備を通じて遊技の結果提供する景品についての自主規制の一部改正案をまとめた。

これは、「景品提供を行う遊技機における景品の取扱いに関する綱領」（九二年十二月）の一部改正で、主に「景品として提供してはならない」として例示した品目などを追加するもの。前回会合（本紙前号参照）で検討、その文案など含めまとめた。

すでに自主規制で提供してはならない景品の例を、たばこ、酒などいくつか掲げているが、掲示されていないからとして問題のある景品が市場に出回ったり、雑誌の広告に掲載されたりしたことから、警察庁・生活保安課が指摘、ＪＡＭＭＡとして対応することになった。そこで、提供してはならない景品の例としてライターなどの喫煙用具や、ナイフなどの刃物、ショーツなどの下着、コンドーム、花火など火薬類、許諾のないキャラクター商品を追加した。

また市販価格五百円以上の景品や提供してはならないとしている景品の広告掲載の禁止を明示することにした。

なおＪＡＭＭＡでは、仕入価格が三百円程度なら市販価格は五百円以下と見なされる、としている。このうち「三百円程度」を「三百円以下」に変えたらどうか、という案もあったが、変更しないことにした。

また月刊「アミューズメント産業」が、景品広告の自主規制を改めて行なっていくことが了承された。同誌では仕入価格を三百三十円以下なら構わない、との判断を示しているが、それは同社が責任を負うものと解されている。

ＡＯＵ法務委
不買宣言含める
景品提供機で自主規制案

ＡＯＵの法務委員会（真鍋正委員長）は六月二十四日、ＡＯＵ事務局で第七回会合を開き、景品提供機問題に対応した当面の自主規制案をまとめた。駒井徳造副会長らも出席した。

これはＡＯＵ通常総会（六月十六日）に伴う議論の中で自主規制を作ることを決定、法務委員会が原案を作成することになったため開かれたもの。景品提供機のうち遊技の偶然性が強い機種の排除を強く打ち出す必要がある——などの議論を経て、次の三項目を内容とする自主規制案を作成することを決めた。

①パチンコ／パチスロなど「七号営業」に使用されるか、使用された機種を、景品が提供される機構を持つよう転用したものについては、今後新たに購入、設置しない。

②技術介入性が少なく、偶然性が支配的な（景品提供の）機種は、今後新たに購入、設置しない。

③一つの店舗に景品提供機を、過度に設置、運営しない。

この内容で文章化し、警察庁と相談するとともに、ＪＡＭＭＡと連名で実施する方針で進めることになった。

ＡＯＵ健全委
自主規制を確認
三重県のモデルケースも

ＡＯＵの健全営業推進委員会（吉田勲委員長）は六月二十九日、京都タワーホテルで第十四回会合を開き、景品提供機問題についての同委員会の結論をまとめた。

これは事務局による経過説明とそれに基づく討論を経てまとめたもので、新たに自主規制を実施する、としている。その内容は、「景品提供を行う遊技機における景品の取扱いに関する綱領」（九〇年十二月）を再確認し、パチンコ／パチスロなど「七号営業」に使用されるか使用された遊技機を、景品が提供される機構を持つよう改造したものについては、今後新たに購入、設置しない、というもの。

このほか健全営業推進の立場から行なう店舗視察については、今年の全国大会地点から開始すること、専業許可営業所の一〇〇％組織率をめざすモデルケースとなった三重県協では九月にリストアップ、その後風営法講習会など進めること、など了承した。

兵庫県協、理事会
新会長に西山氏
河合氏退任で大王振興から

兵庫県アミューズメントオペレーター協会は七月七日、神戸のセンタープラザで理事会を開き、河合久雄会長の後任に西山清治氏（㈱大王振興）を選出した。

これは河合久雄氏が大王振興の社長を退任、西山清治氏が社長となり、同協会についても河合氏が会長を退任したことによるもの。同理事会では欠員が生じた理事にまず西山氏を選出、さらに新会長として全員一致で同氏を選んだ。来年の通常総会までの任期。

同協会では四部会制を採用していることから、連絡事項など部会ごとに処理することで、会長職の事務軽減を図るとともに、会計担当を射場莞爾氏（㈱タック）に移した。

理事会では以上のほか、㈱大阪アミューズメント商会、千代田産業㈱の入会を承認、会員数五十九社となった。恒例の会員懇親会合は今年、九月八日に赤穂御崎温泉で開催することが了承された。

同協会では六月二日にメーカーなどとの懇親夕食会を新神戸のホテルグランドビスタで開き、三十五名参加した、などの報告があった。

山梨県協の福祉活動
障害児童を招待
ゲーム場でフリープレイ

山梨県アミューズメントオペレーター協会（事務局甲府市、日達健会長）は七月一日、福祉施設の生徒三十九名を会員運営ロケーションに招待し、約二時間無料で遊ばせた。

これは同協会の今年度事業活動の中に掲げた「地域への貢献」の一環として実施されたもの。県青少年女性課に養護学校あるいは特殊学級の紹介を依頼したところ、福祉施設の県立育精福祉センターの障害児童を対象とすることになり、児童三十九名と付添い職員十七名を招待した。ロケは副会長会社である太東商事㈱（山下征士社長）運営「プレイタウン・パル」（甲府市内）で、当日は同協会から会員七社十名が参加した。

招待された児童たちは係員の指示に従ってＴＶゲーム機やクレーン機、カーニバルゲーム機、乗物機などを楽しんだ。同店では当日は一般客も入場しているため、店内ゾーンごとに係員を配置し、招待児童が希望する機械のサービスドアをその都度開けて、サービススイッチによる無料プレイという方法がとられた。

同協会では「児童たちはゲームの楽しさよりも、ふだん入れないゲーム場に来たこと自体を喜んでいた。ゲームを通じて地域に少しでも貢献していきたい」としている。

なお同協会ではこのほか、会員ロケ二十五店による家出人発見協力のための連絡網を作っている。

山梨県協がゲーム場に招いた障害児童たちと関係者の記念写真から

群馬県協、通常総会

統一名称に変更

AOUの要望に添い7月に

群馬県健全娯楽業協会（事務局前橋市、長井日本機会長、会員二十九社）は五月十八日、伊香保温泉のホテル福一で第十期通常総会を開き、予決算案などを承認、また同協会名を「群馬県アミューズメント施設営業者協会」に変更することを承認した（ことにした）。

同総会には二十一社が出席。長井会長の挨拶に続き、来ひんとして県警防犯部防犯課の菅谷利男係長、同協会顧問で行政書士の土田武氏からそれぞれ挨拶があった。

新入会員として、再入会した㈱メキシコのほかクエスト、㈲グッド・ヒル、㈱ラッキーの四社が紹介された。

続いて平成四年度事業報告案、決算案、五年度事業計画案、予算案が審議され、いずれも異議なく承認された。うち事業計画については、例年どおり「前橋七夕祭り」への参加を挙げ、他の地域の催事への参加も検討することになった。

同協会名変更についてはAOUからの要望により検討したもので、七月一日付で新協会名とすることを承認した。

議案審議終了後、県警の菅谷係長から風営法について話があり、AOUが昨年十二月に警察庁に提出した陳情書にも触れながら説明し、会員と質疑応答を行なったほか、会員増強のために地区ごとに支部組織を作ってはどうかとの提案もあった。

この後、出席メーカー七社から新製品動向について話があり、総会終了後は懇親会が開かれた。

千葉県協、定時総会

再び中島会長に

改選時ごとに会長が交代

千葉県健全娯楽業協会（飯島清勝会長、会員二十二社）は五月二十七日、千葉市内の千葉パレスホテルで平成三年度定時総会を開き、予決算案などを承認し、役員改選により中島豊彦氏（㈱京葉リース）を新会長に選任した。

同総会には委任六社を含む二十社が出席。事業年度の移り変わりに伴う平成四年度事業報告案、収支予算案、五年度事業報告案、予算案はいずれも原案どおり異議なく承認された。

役員改選は任期満了に伴うもので、新役員態勢は次のとおり。なお同協会では、会長職はできるだけ改選時に交代するのを基本方針としている。

会長＝中島豊彦氏。副会長＝大野佳之氏（大野商事㈱）、飯島清勝氏（ワールドリース㈱）。理事＝稲田正一氏（㈲稲田商事）、山田茂雄氏（㈱センシン）、金児賢爾氏（㈱ナムコ）、山田数夫氏（㈱トーゴ）。監査＝山本隆司氏（中央娯楽㈱）。

なおこれにより事務局が新会長会社へ移転した。所在地などは次のとおり。

千葉県健全娯楽業協会　事務局＝四街道市大日五四七、㈱京葉リース内、☎（〇四三四）二一－三〇三八。

総会終了後は懇親会が開かれ、翌日ゴルフコンペが行なわれた。

茨城県協の福祉活動

TV機4台寄贈

同じ寄贈先、不自由児施設に

茨城県アミューズメントオペレーター協会（事務局水戸市、宇島準一会長）は六月二十三日、水戸市内の水戸プラザホテルで理事会を開いた後、福祉施設へTVゲーム機を寄贈した。

理事会では地方催事への参加の検討、景品払い出し機の取り扱いについての話合いなどを行なった。また今年春から検討してきた福祉施設へのゲーム機寄贈について、このほど寄贈先が肢体不自由児施設の県立子ども福祉医療センターと決まり、㈱トニー、プレビ㈱、大野商事㈱、㈱タイトーの四社が各一台ずつ、計四台のTVゲーム機（18インチミディ型）を提供することになったことを確認した。そして同理事会終了後、同施設へ寄贈した。

同センターには以前に同協会が寄贈したTVゲーム機三台が設置されているが、今回の寄贈で計七台となった。同センターでは十八歳までの子どもたちがいることから、ゲーム内容により三台を低年齢用、四台を高年齢用に分けて設置し、「休憩時間に大変喜んで遊んでいる。リハビリの一助としても役立つかもしれない」としている。なおゲームプレイについては基板のディップスイッチの切替えにより、スタートボタンを押すだけでゲームが始められるようにセットされている。

AOU東北地区協

坂氏を新会長に

山形県内で技術研修予定

AOUの東北地区協議会（佐久間正則会長）は五月二十四日、秋田市内の秋田ビューホテルで、「第三回通常総会」を開き、新会長に坂武氏（秋田県協会長）を選任した。

同会合には構成員のほかオブザーバーも含め二十名が出席。佐久間会長が議長となって議事に入り、平成四年度事業報告案、会計報告案、五年度事業計画案、予算案をそれぞれ承認した。うち事業計画については技術研修会を山形県内で実施することを決めたほか、AOUの事業への協力を挙げている。

役員については改選を行ない、新会長に坂氏、副会長に今野創氏（秋田県協副会長）と立里一正氏（山形県協会長）をそれぞれ互選により選任した。

会合終了後は懇親会を開き、翌日はゴルフコンペを行なった。

栃木県協、通常総会

県警から注意点

事業計画は前年どおり

栃木県健全娯楽業協会（事務局日光市、入江昭造会長、会員三十八社）は五月二十七日、宇都宮市のニューイタヤホテルで第九回通常総会を開き、事業年度の移り変わりに伴う予決算案などを承認した。

同総会には三十五社のほかメーカー、ディストリビューターら二十社が出席した。

入江会長挨拶の後議案審議に入り、平成四年度事業報告案、収支予算報告案、五年度事業計画案、予算案がいずれも異議なく承認された。うち事業計画についてはほぼ前年度どおりで、会員相互の親睦と情報交換、青少年健全育成と防犯への協力、遊技機賭博撲滅への協力などとなっている。

来ひんとして県警防犯課の相馬課長補佐、茂木係長が出席し、八号営業者に対する注意事項、健全営業などについて話があった。

この後、出席メーカーとディストリビューターからそれぞれ自己紹介および新製品動向について説明があった。

総会終了後は懇親会が開かれ、翌日は同協会「第二十二回親睦ゴルフコンペ」が行なわれた。

小型AM機下請けメーカー

横浜の産升倒産

社名変更したタナカ製作所

民間の信用調査機関調べによると、㈱産升（横浜市緑区、田中穣社長）が六月二十五日に横浜信金（青葉台）で二回目の不渡りを出し、三十日に銀行取引停止処分を受けた。負債総額は五億六千万円と見込まれている。

同社は六八年（昭和四十三年）に設立された小型AM機下請けメーカー㈱タナカ製作所で、二年ほど前に現社名に変更した。主にトーゴの下請けメーカーとしてSCロケ用の小型および中型乗物機、小型ゲーム機を製造しており、八九年には新潟に工場も開設していた。九二年七月期の売上高七億三千三百万円。ちょうど社名変更したころから、事業を広げたことが資金事情を悪化させたもようだ。

ジャスコシティ新潟東店に国内最大規模の風営8号店

「カプコサーカス」開設
2フロア屋内AMパーク

カプコンが直営の大型ロケーション展開へ

新潟市郊外に屋内AM施設としては国内最大級となる「カプコサーカス」が、㈱カプコン（本社大阪、辻本憲三社長）の運営により七月三日オープンした。

同社ではこれまでオペレーション部門については子会社の㈱カプトロン（本社東京、西野実社長）に担当させてきたが（比較的中規模の既存店が三十四店舗ある）、大型店については同社が直接運営に乗り出すことになったもの。「カプコサーカス」は同社初の直営大型ロケとなるもので、四月に新設していたアミューズメント施設部が担当し、今後も大型店を次々と開設していく計画を進めている。

同ロケは新潟市街地から自動車で約十五分の旧国道七号線沿いにあり、同日新規オープンしたジャスコシティ新潟東店の〝レジャー館〟として設置されている。これは物販棟と連絡通路で結ばれた別棟で、同ロケのみの二階建て建物（屋上は駐車場）になっている。

二フロア合わせた営業面積は約五千六百平方メートルあり、三種類の遊園施設、「カプコンボウリンゴ」など大型機とともに、ゲーム機約四百四十台が設置されている。全営業面積が八号営業の対象となっており、八号営業所としては国内最大規模となる。総投資額（保証金含む）は二十六億円で、同社では坪当たり一ヵ月六万円の売上げを基準とし、月間売上げ一億一千万円を目標としている。

写真はいずれも屋内用コースター「アラビアンコースター」にて、左は車両、下はコース内および入口部分のディスプレイのようす

「カプコサーカス」の入口部分と同ロケの建物のようす

5千6百平方メートルのフロア　遊園施設を含め4百40台

同ロケのコンセプトは〝サーカスのテントに一歩足を踏み入れた時から始まる、だれもがワクワクする遊空間〟で、ロケ全体を一つの〝サーカス小屋〟に見立てている。なお装飾関係は乃村工芸が全面的に担当した。

一階フロアは約三千三百平方メートル、二階は二千三百平方メートルある。ゲーム機の総設置台数四百四十台の内訳は、TVゲーム機が約百七十台（うち同社ミディ型キャビネット「BGS25」が百十五台、体感コックピット型が約三十台）、プライズゲーム機約三十台、カーニバルゲーム機約三十台、フリッパー七台、その他スポーツゲーム機などアーケードゲーム機が約五十台、メダルゲーム機約百二十台（うち大型十六台、メダル貸出しは一枚二十円）、その他約四十台。なおこのうち風営対象機は約三百六十台となっている。

一階は〝遊園地〟がテーマで、二種類の遊園施設を中心にレイアウトされている。うち一種類はトーゴ製「メリーゴーランド」で、屋内型としては最大の四十人乗り。同機は床を掘り下げて設置し、フロアと同機の円形舞台の高さを同じにしてあることが最大の特徴で、デザイン的にもすっきりしている。また天井との距離があるため圧迫感もない。同機が同ロケの一番人気となっており、これまで一日最高千五百人もの利用があったそうだ。所要時間は約五分、利用料金二百円（チケット制）。

もう一種類の遊園施設は真砂工業製ローラーコースター「アラビアンコースター」。同機はアラビアンナイトをテーマにした特注機でモーター駆動による自走式。コース全長百六十三メートルで高低差が最大二・七メートルある。最高時速は毎時二十五キロメートル。二人乗り車両が四台編成で定員八人。所要時間約五分。利用料金（チケット制）三百円。身長百十センチ以下は利用できない。同

上はトーゴ「メリーゴーランド」で、床と回転舞台の段差をなくしているのが特徴。下はナムコ「ドリフトキング」によるカプコンサーキットのようす

「カプコサーカス」のロビー部分のようす

機設置フロアだけ照明を暗くして、月夜の砂漠という雰囲気の装飾が施されている。同機も休日には順番待ちの列ができるほどの人気だそうだ。

一階にはこのほか「シアター6・G3・プロジェクトドラゴン」「D3・BOS」など大型機種を含め約二百四十台が設置されている。入口部分には「ストⅡダッシュターボ」を六十インチ大画面キャビネット四台に組込みアピール。ちなみに「BGS25」キャビネット百十五台のうち約三〇％を「ストⅡ」シリーズで占めている。

二階はスポーツ性を重視した機種構成になっており、ナムコ「ドリフトキング」六台による競走バッテリーカー「カプコンサーキット」、「カプコンボウリンゴ」四ユニット八レーンを中心に、カーニバル機や体力を使うゲーム機など約百九十台を設置。

「ボウリンゴ」については改良を重ねてきており、同ロケに設置されたものは、投球タイミングが子どもにもわかるようにした赤と青のランプ表示、より安全性を高めたボールラック部分の衝撃吸収機構と上部フードの設置など最新バージョンのもの。また正面パネルも森と動物たちを描いた楽しいものにし、中央の柱があるデッドスペースを利用して金属製の動物や木の彫刻をディスプレイするなど雰囲気を盛り上げる工夫がなされている。利用料金三百円。

なお同機は現在同ロケを含めて九ヵ所に計八十レーンが設置されており、年内にさらに三ヵ所への導入を予定している。

同ロケ全体はカップルや女性客を意識した〝シンプルでおしゃれ〟な装飾を基本に、同社レーシングチームのレーシングカーの展示や「ストⅡ」の〝春麗〟キャラクターのディスプレイなどもある。

スタッフは社員十五名、アルバイト四十三名で店長以外は全員現地採用の新人だそうだ。

ジャスコでは商圏を半径五十キロメートルに設定しており、実際かなり遠方からの客も多いようだ。物販棟は午前十時から午後八時までだが、同ロケは午後十一時四十五分まで営業。ほとんどの客は自動車で来店し、今までのところ買物客より同ロケを目的に来る客のほうが多いとのことで、とくに夜は物販棟が閉店する八時以降でも駐車場（千五百台収容）には千台以上が駐車しているそうだ。同ロケの春木良夫店長は、「客の多くは屋内遊園地の気分で来ているので滞留時間が長く、半日以上いる家族連れやカップルも珍しくない。売上げは予想どおりで目標は十分クリアできるペースだ」としている。

なお物販棟にもジャスコ直営ロケ「ファンタジーアイランド」があるが、これは風営対象外で約百五十平方メートルのフロアに小型乗物機中心に約三十台を設置し、幼児対象に運営。「カプコサーカス」とは対象客層が異なり、機種についても両ロケに同じものを設置しないようにしているそうだ。

2階フロアの中央付近のようす。天井の巨大な円形電飾が人目を引く

「カプコンボウリンゴ」のようす。右は同機の中央部分にディスプレイされた動物やヤシの木などの金属製の彫刻

春木良夫店長

いずれも1階フロアのTVゲーム機設置部分のようす

「カプコサーカス」配置図
新潟市大形本町一の一七一六の一
☎（〇二五）二七五－三七七七

カプコン、D映画祭の
冠スポンサーに
SFC用ソフトもヒット

(株)カプコン（本社大阪、辻本憲三社長）は、ニッポン放送が七月中に開催する「ウォルト・ディズニー映画祭」に、初めて冠スポンサーとなったが、同映画祭初日の七月九日、東京・有楽町のニッポン放送「銀河スタジオ」で関係者らによる記者会見が行なわれた。

出席したのはザ・ウォルト・ディズニー・スタジオのリチャード・フランク社長、ディズニー映画の作曲家、アラン・メンケン氏、カプコンの辻本社長、ブエナビスタ・インターナショナル・ジャパンの生長建雄副社長、同映画祭の速水彰夫事務局長。

フランク氏は「今回のディズニー映画祭が、日本と米国を結ぶ文化的な架け橋となるよう望んでいる」と語り、辻本氏は「ディズニーのキャラクターを家庭用TVゲーム開発で利用してきた。8ビット機ではそうでもなかったが、16ビット機ではアニメの良さがよく分かり、『ミッキーのマジカルアドベンチャー』（SFC用）が六十万個の大ヒットになった」など語った。

同映画祭は、八月公開の話題作「アラジン」のプレミアショーともなったことから注目された。

上映作品は「アラジン」のほか、「ミッキーズ・アニメマラソン」、「美女と野獣」、「白雪姫」など。七月九－十日、東京の日本青年館ホールから始まり、七月十七－十八日に大阪・リサイタルホール、七月二十四－二十五日に名古屋・マツザカヤホールと、三ヵ所で催された（全席自由席だが、入れ替え制。十四歳以上は有料で作品ごとに千円ないし千五百円の前売り券方式）。

SNK本社の電話が
ダイヤルインに
FAX番号は変更なし

(株)エス・エヌ・ケイ（SNK、本社大阪、川崎英吉社長）では八月二日付で、本社電話番号を部署別のダイヤルイン方式に切り換える。主な番号は次のとおり。

大代表☎（〇六）三三九－三三一一。営業本部五五三五、販売部五五五八、商品部五〇二五、コンシューマー部五五六六、海外部五五七七、広報室五四六一、総務部五一二二、社長室五五一八。

なお本社のファックス番号、西日本統括部などの電話番号は従来のとおり。

ゲーム音楽CD
コナミの2枚組
「ガイアポリス」など3作を

コナミの業務用TVゲーム機「ガイアポリス」「リーサルエンフォーサーズ」「ミスティックウォーリアーズ」の三機種のゲーム音楽を収録したCDアルバム「コナミ・アミューズメントサウンズ'93・夏」が、キングレコード(株)から八月二十一日発売となる。

これはCD二枚組で、三ゲーム音楽のオリジナル曲とコナミ矩形波倶楽部によるアレンジバージョンなど二枚で合計八十七曲が収録されている。価格は三千二百円。

神戸の大王振興
西山氏が社長に
河合氏は6月18日に退任

西山清治氏

(株)大王振興（本社神戸）は六月十八日、河合久雄社長が健康上の理由で退任、西山清治部長が社長に就任した。同社はセガの非連結子会社で、神戸を中心にロケーションを展開するオペレーター会社。

新社長の西山清治氏は六三年中央大工卒。七六年に(株)マル三商会に入社、八二年同社倒産に伴い大王振興に移り、取締役営業部長に。五十六歳。

本社移転

(株)セタ＝東京都大田区西蒲田七丁目三十五の一、☎五七一一－七二五一、富士本淳社長。

ダイヤテック(株)＝東京都渋谷区恵比寿南一丁目九の四、長谷川ビル、☎三七九一－三八八一、鍋田邦汎社長。

事業所開設

東洋テクトロン(株)・青森事業所＝青森市浦町奥野三五七の十五、☎（〇一七七）三五－七六三二。同・秋田事業所＝秋田市川尻大川町十番二十六号、☎（〇一八八）六五－三五一一。

社名変更

(株)未来考房（旧・(株)ウィックス）＝愛知県安城市横山町毛賀知十九の一、☎（〇五六六）七七－三六六一、鈴木博己社長。

シグマ
米国SG社長が重役に

(株)シグマ（本社東京、真鍋勝紀社長）は六月二十九日の定時株主総会を経て、次の役員異動を行なった。

取締役（米国シグマゲームズ社社長）加藤禎蔵氏▽退任（専務）金田操氏。

論潮

たまり場説

八四年八月に公布され八五年二月に施行された新風営法で、「ゲームセンター等」が新たに「八号営業」として風俗営業に加えられた理由は、立法段階の資料によると、遊技機賭博と不良少年のたまり場の二点を未然防止することにある。うち遊技機賭博については新風営法が何ら効果的でなかったことが明らかであり、それ自体も大きな問題だと言うことができる。

もうひとつの「不良少年のたまり場」については、ゲームセンター営業所の約七割がたまり場になっているという、八三年七月現在の警察庁・少年課調べの統計を根拠にしているが、その後この種の統計結果はなぜか公けにされていない。法改正を審議した国会でも、先の統計の曖昧さが指摘されたが、結局具体的な根拠は明らかにされないままだった。

ところが都道府県の警察本部がよく指摘するのは、ゲーム場での少年補導した内訳では学校をサボる「怠学」とたばこを喫う「喫煙」が八割ないし九割を占めているということで、これが「不良少年のたまり場」説の根拠になっているらしい。しかし新風営法では、こうした「怠学」「喫煙」をなくすための有効な方法をどこにも示していないので、これもまた不思議な話と言える。

「怠学」はいわゆる管理教育への反発とも受けとれるし、文部省が扱うべき課題と言えよう。「喫煙」は、もはや学校でも常態化しているのが現実とされており、風俗営業者らがどう努力しようと（せいぜい営業所内を禁煙にすることぐらいか）少年の喫煙は阻止できない。それより一般のテレビなどでのたばこの広告を禁止するなど、新風営法以外の規制のほうが効果的ではないだろうか。

新風営法によってゲーム場が不良少年のたまり場でなくなったということを、政府提出法案として担当した警察庁は、これらの観点から納得できるよう科学的に証明すべきである。さもないと、これは無意味な法改正だったということになる。

Manufacturers Directory 1993

VIDEO GAMES

ADK CORP.
Leben Bldg., 1-16-8, Atago, Ageo, Saitama 362
(048) 775-2412
Fax: (048) 775-2198
K. Arai .... president

ATLUS LTD.
3-12 Tsukudo-cho, Shinjuku-ku Tokyo 162
(03) 3235-7801
Fax: (03) 3235-7804
N.Harano .... president

BANPRESTO CO., LTD.
Bandai No.3 Bldg., 4-14, Komagata 1-chome, Taito-ku, Tokyo 111
(03) 3847-5161
Fax: (03) 5828-8519
Y. Sugiura .... president

CAPCOM CO., LTD.
1-12, Tokiwamachi, 2-chome, Chuo-ku, Osaka 540
(06) 946-2058
Fax: (06) 946-6657
K. Tsujimoto .... president
M. Sasatani .... manager

DATA EAST CORPORATION
4-41-10, Minami-Ogikubo, Suginami-ku, Tokyo 167
(03) 5370-0718
Fax: (03) 3335-3741
T. Fukuda .... president
H. Chosokabe .... manager

IREM CORPORATION
Okamotokosan Bldg., 11-9, Nishihommachi 1-chome, Nishi-ku, Osaka 550
(06) 535-4885
Fax: (06) 535-4910
Y. Takashima .... president
S. Akada .... overseas business manager

JALECO LTD.
2-19-7, Yohga, Setagaya-ku, Tokyo 158
(03) 3708-4830
Telex: JALECO J27891
Fax: (03) 3708-4822
Y. Kanazawa .... president
H. Saigusa ... manager overseas department

KANEKO CO., LTD.
8-23-21, Shakujiidai, Nerima-ku, Tokyo 177
(03) 3921-9661
Fax: (03) 3922-1753
H. Kaneko .... president
N. Adachi .... director, office of the president
K. Igarashi .... secretary

KONAMI CO., LTD.
4-3-1 Toranomon Minato-ku, Tokyo 105
(03) 3432-5528
Fax: (03) 3432-5679
K. Kozuki .... chairman
Y. Nishimura .... president
K. Hiraoka .... general manager, overseas marketing dept.

MAGICAL COMPANY LTD.
Magical Bldg., 1-10 Umadome, Fukiai-cho, Chuo-ku, Kobe 651
(078) 261-2790
Fax: (078) 261-2792
H. Matsuura .... president
N. Ukita .... manager

MITCHELL CORPORATION
Sakae Bldg., 3-12-1 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166
(03) 3220-2647
Fax: (03) 3220-2607
Roy Ozaki .... president
K. Niida .... Sr. VP

NAKANIHON WREATH CO., LTD.
6-10, Hattan, Moriyama-ku, Nagoya 463
(052) 791-4111
Fax: (052) 791-4168
E. Hayakawa .... president

NAMCO LTD.
1-21, Yaguchi 2-chome, Ohta-ku, Tokyo 146
(03) 3756-2311
Fax: (03) 3756-5967
M. Nakamura .... president
N. Suzuki .... general manager, overseas sales dept.

NIHON BUSSAN (NICHIBUTSU) CO., LTD.
12-9, Tenjinbashi 1-chome, Kita-ku, Osaka 530
(06) 353-5211
Fax: (06) 356-1531
S. Torii .... president

NMK CO., LTD.
Chiyoda Bldg., 3-11-6, Iwamoto-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 101
(03) 3863-2920
Fax: (03) 3863-3319
Y. Kotoyori .... president
J. Yasuda .... manager, sales dept.

SAMMY INDUSTRIES CO., LTD.
2-23-2, Higashi-Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 170
(03) 5950-3760
Fax: (03) 5950-3761
H. Satomi .... president
M. Suzuki .... managing director

SEGA ENTERPRISES, LTD.
2-12, Haneda 1-chome, Ohta-ku, Tokyo 144
(03) 3743-7438
Telex: J22357 SEGASTAR
Fax: (03) 3743-5539
H. Nakayama .... president
K. Sato .... U.S.A. & European div.
M. Kuhara .... Oceania & Asia div.

SETA CO., LTD.
7-35-1, Nishi-kamata, Ohta-ku, Tokyo 144
(03) 5711-7251
Fax: (03) 5711-7252
J. Fujimoto .... president
T. Ishikawa .... executive director
M. Ohno .... manager

SIGMA, INC.
14-15, Higashi 3-chome Shibuya-ku, Tokyo 150
(03) 3486-5771
Fax: (03) 3486-5770
K. Manabe .... president
T. Onodera .... managing director
K. Hasegawa .... export manager

SNK CORPORATION
18-8, Toyotsu-cho, Suita, Osaka 564
(06) 339-5577
Fax: (06) 338-7175
E. Kawasaki .... president
Y. Jinno .... general manager, int'l dept.

SUN ELECTRONICS CORP.
250, Asahi, Kochino-cho, Konan, Aichi 483
(0587) 55-3500
Fax: (0587) 54-8248
M. Maeda .... president
S. Furukawa .... export manager

TAITO CORP.
2-5-3, Hirakawa-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 102
(03) 3222-4807
Fax: (03) 3238-7965
K. Hasegawa .... president
K. Tanabe .... managing director and general manager
M. Kagawa .... deputy general manager

TAKARA AMUSEMENT CO., LTD.
YS-1 Bldg., 1-10-2, Asakusa, Taito-ku, Tokyo 111
(03) 5828-5311
Fax: (03) 5828-5310
Y. Sato .... president
M. Funane .... assistant manager

TATSUMI ELECTRONICS CO., LTD.
14, Toichi-cho, Kashihara, Nara 634
(07442) 3-4764
Fax: (07442) 5-1191
Y. Tatsumi .... president
M. Nagafune .... director
M. Okuda .... sales manager

TECHNOS JAPAN CORP.
1-26-6, Arai, Nakano-ku, Tokyo 165
(03) 5343-5611
Fax: (03) 5343-5603
K. Taki .... president

TECMO LTD.
4-1-34, Kudankita, Chiyoda-ku, Tokyo 102
(03) 3222-7630
Telex: J27174 TECMO
Fax: (03) 3222-7629
T. Kakihara .... president
N. Osada .... senior managing director
R. Akaishi .... managing director
J. Nakamura .... managing director
I. Fukada .... deputy general manager

TOAPLAN CO., LTD.
Toa Bldg., 1-8-4, Shimizu, Suginami-ku, Tokyo 167
(03) 5397-0511
Fax: (03) 5397-4755
T. Hayashi .... president
H. Moriya .... general manager

VIDEO SYSTEM CO., LTD.
35-1, Matsunoki-cho, Shimogamo Sakyo-ku, Kyoto 606
(075) 723-0358
Fax: (075) 723-0368
K. Furukawa .... president
Y. Murayama .... manager

VISCO CORPORATION
3-12-12, Kaname-cho, Toshima-ku, Tokyo 171
(03) 3554-0121
Fax: (03) 3554-0150
T. Akiyama .... president
Y. Itoi .... international sales manager

ARCADE GAMES

KANSAISEIKI SEISAKUSHO CORP. (KASCO)
3, Mameda-cho, Nishi-Kyogoku, Ukyo-ku, Kyoto 615
(075) 311-2585
Fax: (075) 311-2586
K. Furukawa .... chairman
J. Furukawa .... president

KATO MFG. CO., LTD.
24-13, Kita-Karasuyama 6-chome, Setagaya-ku, Tokyo 157
(03) 3307-1221
Fax: (03) 3307-1244
I. Kato .... president
S. Sibuya .... business manager

KOMAYA MFG. CO., LTD.
10-4, Uozaki-Minamimachi 6-chome, Higashinada-ku, Kobe 658
(078) 412-2121
Fax: (078) 412-3851
Y. Onoe .... president

YUEI CO., LTD.
3-7-5. Misaki-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 101
(03) 3263-9421
Telex: J28695 KABUYUEI
Fax: (03) 3263-9476
H. Uchida .... president

KIDDIE RIDES

ASAHI ENGINEERING CO., LTD.
1387-2, Tannowa, Misaki-cho, Sennan-gun, Osaka 599-03
(0724) 94-0783
Fax: (0724) 94-2195
A. Fujiwara .... managing director

ACT CO., LTD.
20-7, 5-chome, Hiyoshi, Kouhoku-ku, Yokohama 223
(045) 562-5121
Fax: (045) 562-6905
M. Nozaki .... president
Y. Taira .... manager

HOEI SANGYO CO., LTD.
1-25-29, Edobori, Nishi-ku, Osaka 550
(06) 444-4120
Fax: (06) 444-4124
T. Eiraku .... president
Y. Norioka .... managing director

HOPE CO., LTD.
50, Imaikami-cho, Nakahara-ku, Kawasaki, Kanagawa 211
(044) 722-6141
Fax: (044) 711-2779
S. Ono .... president
T: Yano .... managing director

KANTO GORAKU KOGYO CO., LTD.
18-23, Minami-Ikebukuro 1-chome, Toshima-ku, Tokyo 171
(03) 3986-5331
Fax: (03) 3986-5333
S. Nakamura .... president
H. Chiba .... exprot manager

KATO AMUSEMENT CO., LTD.
2-11, 1-chome, Sawaragi-Nishi, Ibaraki-City, Osaka 567
(0726) 35-1886
Fax: (0726) 35-1880
K. Kato .... president
Y. Kawamura .... export manager

MASAGO INDUSTRIAL CO., LTD.
Shonan-Kogyo-Danchi, Shonan-cho, Higashi-Katsushika-gun, Chiba 270-14
(0471) 91-4151
Fax: (0471) 91-4129
Y. Masago .... president
M. Masago .... managing director

MIDGETY ENGINEERING CO., LTD.
53-2, Suzuki-cho, 1-chome, Kodaira-shi, Tokyo 187
(0423) 43-2851
Fax: (03) 3464-7763
K. Hashimoto .... president
H. Arai .... export manager

NIHON GORAKUKI CO., LTD.
22-4, Minami-Aoyama 2-chome, Minato-ku, Tokyo 107
(03) 3402-7311
Fax: (03) 3403-8862
K. Endo .... president

NIPPO CO., LTD.
27-12, Sakae 5-chome, Naka-ku, Nagoya 460
(052) 263-1281
Fax: (052) 263-0992
A. Iwayama .... manager

OKAMOTO MFG. CO., LTD.
19-9, 7-chome, Ebie, Fukushima-ku, Osaka 553
(06) 451-6156
Fax: (06) 451-5530
N. Okamoto .... president

SANOYAS HISHINO MEISHO CORP.
6-21, 3-chome, Sagisu, Fukushima-ku, Osaka 553
(06) 458-3557
Fax: (06) 451-2467
I. Ohno .... president
M. Fukuda .... vice president
K. Wakazono .... managing director
S. Sakamoto .... executive director

SANSEI YUSOKI CO., LTD.
13-18, Esaka-cho, 1-chome, Suita, Osaka 564
(06) 385-5626
Fax: (06) 337-3146
A. Ohta .... president
J. Yagi .... manager of amusement ride dept.

SENYO KOGYO CO., LTD.
13-15, Motomachi 1-chome, Naniwa-ku, Osaka 556
(06) 632-1051
Fax: (06) 647-2376
S. Yamada .... president
Y. Yahata .... managing director
N. Kida .... manager

SHINSUI TRADING CO., LTD.
#502, Sankyo Bldg., 1-3, Kojimachi, Chiyoda-ku, Tokyo 102
(03) 3263-5281
Fax: (03) 3238-0290
H. Morikawa .... president
T. Morikawa .... export manager

TASKO CO., LTD.
3-4-4, Kigawa-Nishi, Yodogawa-ku, Osaka 532 (Osaka office)
(06) 303-7531
Fax: (06) 306-0210
Y. Uehara .... president
H. Uehara .... executive director

TOGO JAPAN INC.
1-5-7, Yagumo, Meguro-ku, Tokyo 152
(03) 3718-6461
Telex: 246-6310 TOGO J
Fax: (03) 3725-2420
K. Yamada .... president

ZEN INTERNATIONAL CORPORATION
7-145, Ikoma-cho, Kita-ku, Nagoya 462
(052) 981-3733
Fax: (052) 981-3794
H. Matsukawa .... president

PARTS

ASAHI SEIKO CO., LTD.
Aoyama Tower Bldg., 2F, 2-24-15 Minami-Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107
(03) 3401-6181
Telex: 27417 HIRO J
Fax: (03) 3401-1325
Hiroshi Abe .... president

DISTRIBUTORS

ABLE CORP., LTD.
4-8-3, Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 171
(03) 3988-2061
Fax: (03) 3988-5180
T. Kumagai .... president
Y. Tokuda ..... managing director, sales dept.

YUBIS CORP.
3-1-35, Kawamata Higashi-Osaka, Osaka 577
(06) 787-1881
Fax: (06) 787-1952
S. Kawakusu .... president

大好評!最新アミューズメントマシンの数々。

人気抜群 ネオカーニバル スペシャル

まぜまぜして、幸運をキャッチ!

大評判!! ラッキーまぜまぜボタン

景品獲得のチャンスを増やし、高インカムを実現します。

※特許出願中

クレーンを動かす前に、このボタンを押し続けると(最大15秒まで)、ぬいぐるみをかきまわす事ができます。1ゲームにつき1回使用でき、デモ動作も可能です。

「ラッキーまぜまぜボタン」が好評のネオカーニバルスペシャル。他にも、プライズセンサーや難易度オート調整など高機能を搭載。楽しさいっぱいで、抜群の集客力を発揮します。

ネオカーニバルスペシャル ミニ (1人用)
●外形寸法(㎜):幅900×奥行き883×高さ1,880
●重量:151kg ●消費電力:AC100V 110W

衝撃の50インチ大画面が、収益をアップ!

ネオ50
●標準設置寸法(㎜):幅1,192×奥行き2,900×高さ1,750
●消費電力:AC100V 330W

他にも、33型大画面MVSや29型大画面MVSなど充実のラインナップが、高収益を実現します。

ニューヨーク市警

NYPDが45人を逮捕

コピー基板とギャンブル機など多数押収

コピーヤーとギャンブル機屋を兼ねる違法業者は、洋の東西を問わず昔からいるが、このほど米国のニューヨーク市警察（NYPD）は一日で四十五人も逮捕するという快挙をなし遂げた。米国のメーカー協会であるAAMAも摘発を支援した。これは米国の業界誌「リプレイ」（本紙と記事、チャート交換で特約関係にある）七月号が伝えたもの。

それによると、組織犯罪取り締り課のピーター・シャンハイ氏率いるNYPDの捜査陣は六月八日の朝、ニューヨーク市内ブルックリンとクィーンズ地区の五ヵ所をほぼ同時に捜索、四十五人を逮捕するとともに、違法なギャンブル機千四百台、TVゲームの無断コピー基板二百七十台分、現金十七万ドルなど押収した。

捜索の対象となったのはアミューズメント・ベンディング社、リバティ・ディング社、JAMMAエレクトロニクス社（もちろん日本のJAMMAと何の関係もない）のそれぞれ会社と、関係者の自宅。

摘発された三社は、電話番号も分からないほどで、まったくヤミ取り引き専門の違法業者と見られている。

NYPDでは組織犯罪の調べに関連して、米国税関からの情報を得て捜査を進め、七ヵ月に及ぶ監視と調査を経て、今回の摘発に至った。ただ、ギャンブル機売買はニューヨーク州では軽罪にすぎず、著作権侵害なら重罪になることから、AAMAの調査担当、ビル・キドウェル氏の支援を受けることにし、技術的に見て無断コピー基板であると判断し押収できる態勢を作ることに成功した、とシャンハイ氏は語っている。

「軽罪」というのは、法定刑として一年以下の拘禁刑が定められている犯罪で、拘禁刑の代わりに罰金支払いで済む場合もある。これに対し「重罪」というのは、法定刑が一年を超える拘禁刑または死刑を定めている犯罪。無断コピー品の売買など著作権侵害は、連邦法で重罪と定められていることから、被疑者らを刑務所に送るにはこの容疑事実を固める必要があった、ということ。

被疑者の扱いは六月中旬に開かれる大陪審（起訴陪審）を経て、著作権侵害で起訴される予定となっている。四十五人のうち何名が起訴されるかなどは、大陪審で決まる。

AAMAのキドウェル氏はこれまで、NYPDに対し偽造基板の見分けかたなどセミナーを開いてきているが、大陪審でも証言するとのこと。

米国ミッドウェー社

世界各地で成果

コピー対策をさらに強化

米国のウィリアムズ・エレクトロニクス社とミッドウェー社（いずれも本社シカゴ）は、WMSインダストリーズ社（本社シカゴ、ルイス・ニカストロ社長）の子会社であるが、ミッドウェー社のTVゲーム機「モータルコンバット」の無断コピー基板が世界各地に出回ったことから、WMSグループとして昨年以来、これらコピーヤーに対する法的手続きを進めてきた。そしてミッドウェー社は六月十六日付で、これらコピー対策の中間発表を行なった。

それによると、各地当局の協力を得て韓国、カナダ、メキシコ、フランス、米国で法的手続きを進めたところ、これまでに一千枚以上の偽造基板と多数の記録文書を押収することができた。まず二月に**イタリア**で、次に四月と五月に**台湾**でそれぞれ摘発が行なわれた（うちイタリアでの摘発については本紙第447号本欄で既報。台湾での摘発は不明）。

韓国では捜査当局が、ある偽造基板メーカーを摘発したが、なお捜査を続行中である。**カナダ**ではRCMP（米国のFBIに相当する捜査機関）が、「モータルコンバット」偽造基板の大がかりな供給網を摘発、六十社以上の販売業者らに打撃を与えた。カナダは米国市場への偽造基板流入ルートになっていることから、これらルートの追跡捜査を進めている。

メキシコでは検察当局が摘発を進めた（本紙前号本欄を参照）。偽造基板の供給禁止と損害賠償を求める民事訴訟も起こしている。**ヨーロッパ**では、著作権保護を強化した法改正を背景に、各国で法的手続きを進めつつある。**米国**でも、いくつかの法的手続きを経て、偽造基板供給ルートに関する資料が作成されつつある。

ミッドウェー社では米国で偽造基板を営業使用するオペレーターまで、法的手続きを広げる方針を固めている。同社のバーバラ・ノーマン副社長（弁護士）は、「偽造基板だとは知らなかったという弁明は何ら役に立たないことを、私たちは明らかにする」と言い切っている。

米国VR8社の

業務用VR出荷

「バーチャルコンバット」

米国のVR8社（本社カリフォルニア州シミバレー、カイル・ホジェット社長）は、同社VRゲーム機「バーチャルコンバット」（アップライト）を七月初めにも出荷すると発表した。価格は一万ドル以下とのことだ。

同社の業務用VRゲーム機は、ACME93で初めて披露され、大きな反響を呼んだ（本紙第447号1めん記事参照）。プレイヤーは、アップライトキャビネットの上からクレーン状に伸びてきているHMD（ヘッド・マウンテッド・ディスプレイ）を顔に合わせ、付属する操作レバー／ボタンを使ってゲームを進める。

ACME93の時点でも注文が集まっていたが、その後も開発を進めていた。

VR8's "Virtual Combat" (screen image)

AAMAシカゴに移転

調査担当が交代

元税関職員のトリンデル氏

米国AMゲーム機のメーカー／ディストリビューター協会、AAMA（アメリカン・アミューズメント・マシン・アソシエーション、スチーブ・コーニスバーグ会長）では、コピー対策調査担当のビル・キドウェル氏が六月にも引退するのに伴い、リチャード・トリンデル氏を採用した。

キドウェル氏は元捜査刑事で、八八年四月にAAMAに採用されて以来、無断コピー基板に対する法的手続きにさまざまな支援活動をしてきた。後任のトリンデル氏は、三十年間も米国税関に勤めてきたベテラン。キドウェル氏の助言でシカゴのオヘア空港で偽造基板の持ち込みを発見した、というエピソードもある。

なおAAMAの事務局が七月九日付で、これまでのバージニア州ウッドブリッジ（米国の首都ワシントンDCの郊外）から、ゲーム機の首都とも言われるシカゴ郊外に移転した。連邦会議など首都でのロビー活動のためのスタッフ数名はワシントンDCに残るが、事務所はなくなった。新事務所所在地などは次のとおり。

AAMA, 450 East Higgins Rd., #201, Elk Grove Village, IL 60007－1417 phone(708)290－9088 fax(708)290－9121

DEフリッパーを盛り立てる

映画JPブーム

ジェイコブ氏EVPに昇格

データイーストの米国子会社、データイーストUSA社（本社カリフォルニア州サンノゼ、福田哲夫社長）の新作フリッパー「ジュラシックパーク」（本紙第452号で紹介ずみ）は、米国での映画「ジュラシックパーク」の大ヒットに伴い、CBSやNBCなど全米テレビ放送ネットでも紹介され、オペレーターにとっても大きな販促活動になったとされている。

P・ジェイコブ氏

同機は正式にはデータイーストUSA社が五月十五日、ワシントンDCで開催したディストリビューター会合で初めて披露された。これは有名なスミソニアン博物館の中のダイナザーホール（恐竜館）で、大きな恐竜の骨格を前にプレビュー・パーティーとして行なわれたもの。

同社ではポール・ジェイコブ販売担当副社長が六月八日付で、エグゼクティブ副社長（EVP）に昇格したと発表した。同氏は重役として、業務用と家庭用の開発から販売までの全般を担当することになった。

米国連邦裁判を紹介する本

これは日本の書籍だが「アメリカ連邦裁判所」（服部健一著、発明協会、八千円）という単行本が発行された。著者はバージニア州に住む米国特許弁護士。主として特許に関わる民事訴訟手続きを分かりやすく解説し、基本的な訴訟法体系を別に英文と脚注付きで紹介している。

日本とは訴訟制度だけでなく、連邦裁と州裁があるなど大きな違いがあるだけに、訴訟関係に接するのは難しいが、この本は多少なりともそういう難しさを取り除いてくれそうだ。

メキスポ93は一段と大規模

AAMA主催による第四回「メキスポ93」（正式にはラテンアメリカ・アミューズメント・ミュージック&ゲームズ・エキスポ）は七月二十日から二日間、メキシコシティで開催されるが、出展社が増え、一段と大規模になるもようだ。

七月六日現在、出展社は八十三社（昨年の実績では七十七社）で、百六十小間（同百二十五小間）使用する。これはメキシコを始め、中南米の市場が活発化しつつあることを反映しており、来場者も昨年の二千人を上回る二千三百人が見込まれている。

さらに引続き七月二十二日から三日間、ブラジルで初の南米展、SALEXが開かれる予定だ。

夏季ＣＥＳ'93

32ビット機のマルチメディアで市場形成を図ろうとする３ＤＯ社のブースでは、今回30タイトル以上のソフトを紹介した

米国ＴＴＩ社のブースはそう大きくない。同社はＣＤ－ＲＯＭプレーヤー付きの「Ｄｕｏ」を中心にソフトを紹介した

「セガＶＲ」用ソフトはこのほか、「アイアンハンマー」、「マトリックス・ランナー」、「アウトロー・レーシング」を予定しており、今年中に発売するとのこと。日本での発売予定は明らかにされていない。

台風の目３ＤＯ

３ＤＯ社は、ＣＤ－ＲＯＭプレーヤーとの一体型マルチメディア機「インターラクティブ・マルチプレーヤー」を、冬季ＣＥＳ93で披露して以来、大きな台風の目のように注目されることになった。従来型の家電製品の不振が続く中で、すでに形成された家庭用ＴＶゲーム機市場をそっくりちょうだいしようとする「第二世代の家庭用ＴＶゲーム論」を前提にしての登場であり、ＡＴ&Ｔ、ＭＣＡ、タイムワーナー、そして日本の松下電器産業などが出資して進めている大型プロジェクトだ。

本体は米国で十月、松下電器産業（パナソニック）から発売されるとあって、夏季ＣＥＳ93でも３ＤＯ社とパナソニックの両者ブースから三十タイトル以上のゲームソフトが披露された。３ＤＯ社は本体を製造せず、ライセンスするだけというユニークな方式を採用しており、会場ではパナソニック製以外に、サンヨー（三洋電機）製も紹介された。

本体の予定価格は七百ドル前後（約七万円）と、家庭用ネオジオよりも高いので、どれほどの市場を形成するのか、まったく未定。しかし、３ＤＯ社のホーキンス社長は、六月三日にＣＥＳに伴うセミナーで講演、その中で「ＣＤ－ＲＯＭソフトの製造コストは一ドルぐらいまで下げられる。本体は千ドル以下だが、タイトルを増やせば十分に安く楽しめる」など語っている。この製造コスト暴露は、さまざまな憶測を呼んだ。

ＮＥＣとハドソンの合弁会社、ＴＴＩ社は、ＣＤ－ＲＯＭプレーヤー付きＰＣエンジン「Ｄｕｏ」に重点を置き、多彩なソフトを展開した。しかし、なぜかＴＴＩ社の家庭用ＴＶゲーム機は、米国市場にごくわずかしか浸透していない。

同社は日光堂と組んで日光堂「カラオケ・ニンジャ」を「Ｄｕｏ」と結べば、ＣＤ－ＲＯＭカラオケソフトも楽しめるとアピールした。

こうしてＣＤ－ＲＯＭプレーヤーに各社の重点が移っているにもかかわらず、市場の主流派たる任天堂がＣＤ－ＲＯＭプレーヤーに慎重なのは、優れたソフトなしにハードは売れないという当然の見地に立つからだ。売れるソフトが出来ても、はたして他社のような価格でいくかどうか（かなり低価格が予想されている）など、まだまだ明らかでないので、余計にマルチメディアが注目されることになる。

今回も出展を見送ったＳＮＫでも「ネオジオ」用ＣＤ－ＲＯＭプレーヤーを開発中であり、冬季ＣＥＳ94（一月六－九日、ラスベガス）には、それを引っ下げて出展するかも知れない。

未確認情報ではあるが家庭用メーカー、アタリコープはＩＢＭ社と組んで、家庭用ＴＶゲーム機「ジャガー」を今秋米国で、一台二百ドルで発売するとのこと。その内容は明らかではないが、他のビジネスと比べるとはるかに活発な家庭用ＴＶゲーム機市場だけに、こうした話題は尽きない。しかし、優れたソフトなしにハードは売れない、ということを、いやというほど教えてくれるのもこのビジネスなのである。

米国家庭用市場を反映する夏季ＣＥＳ93

家庭用ＶＲ発表のセガ社 任天堂は低価格ＮＥＳも

マルチメディア主導する３ＤＯに関心 任天堂はＣＤ－ＲＯＭ来年に持ち越す

右の写真は米国セガ社が発表した「セガＶＲ」のＨＭＤモデル。下の写真は米国任天堂による「ＮＥＳ」新モデル

マルチメディア機器の市場が必ず形成されるとして積極的にマルチメディア機器だけを強調するのは、新ベンチャー企業の３ＤＯ社。これまでＣＤ－ＲＯＭプレーヤーで実績を持つ米国セガ社、ＴＴＩ社もマルチメディアに意欲を示す。しかし、これまで家庭用ＴＶゲーム機の主流を占めてきた米国任天堂は、32ビットＣＤ－ＲＯＭプレイヤー計画を、当初予定よりさらに遅らせ、発売は来年に持ち越されることになった。これは各社の考えかたの違いによるものとされている。

一般入場は減少

今年の夏季ＣＥＳ（コンシューマー・エレクトロニクスショー）93は六月三－六日、例年どおりシカゴのマコーミックプレースを中心に開かれ、うちマコーミックプレースの北館二階を例によって家庭用ＴＶゲーム機関連の出展で埋めた。

その主な出展社は、この展示会で最大規模の小間を構える米国任天堂（ニンテンドー・オブ・アメリカ社、本社シアトル郊外、荒川実社長）、それに次ぐ規模のセガ・オブ・アメリカ社（本社サンフランシスコ郊外、トーマス・カレンスキー社長）、そして東館で派手に出展したジョイント・ベンチャー、３ＤＯ社（スリー・ディー・オー、本社サンフランシスコ郊外、トリップ・ホーキンス社長）、展示規模は小さいがＮＥＣ系のＴＴＩ社（ターボ・テクノロジー・インク、本社ロサンゼルス、辻尚之社長）。これらのサードパーティー、関連機器メーカーも多数出展しており、その中には独自出展のアカレイド社、コナミ・アメリカ社、ナムコ・ホームテック社なども含まれる。

昨年夏に初めて一般入場制を採用したＣＥＳであるが、今回も四日目の最終日だけ一般公開した。この展示会には合計八百七十三社が出展、約四万千二百平方メートルを埋めた。

パナソニック（松下電器産業）製３ＤＯ方式「インターラクティブ・マルチプレーヤー」は10月にも米国で出荷される予定

初日から三日間のトレードオンリー（業者だけが入場できる）には約五万八百人、四日目の一般公開には約三万七千七百人が入場した。最新技術を一般公開しようとする試みだが、昨年の約五万二千人と比べると落ち込みは明らかで、出展社も力の入れようがない。

任天堂とセガ社

米国家庭用ＴＶゲーム機は、16ビット機でセガ社が任天堂と互角に競い合うことで、昨年は値下げがクローズアップされたが、今回は各社が人気映画「ジュラシックパーク」にちなんだソフトで競うぐらいで、話題が少ないのがむしろ特徴となった。

米国任天堂は会場内のドームで、スーパーＦＸチップ内蔵の新作「ＦＸトラックス」を発表。このポリゴンチップによる新分野開拓に意欲を示したほか、「スーパーマリオ」シリーズを一本にまとめたスーパーＮＥＳ用「スーパーマリオ・オールスターズ」などに力を入れた。

注目されたのはＮＥＳ（日本の「ファミコン」に相当する８ビット機）がモデルチェンジして、価格も標準五十ドルに下げるというニュース。日本でファミコン（ＦＣ）が発売されてからすでに十年（米国では八年）経過しているわけで、モデルチェンジせず長年同じ機種で継続していること自体驚きであるが、日本でも今秋モデルチェンジして価格を下げる予定。

夏季ＣＥＳ93は、日本の「東京おもちゃショー」（六月三－六日、幕張メッセ）と時期が重なったため、スーパーＮＥＳ用ソフトなどはほとんど同時に紹介された。

セガ社は「ジェネシス」（日欧では「メガドライブ」）とそのＣＤ－ＲＯＭプレーヤー「セガＣＤ」（日本では「メガＣＤ」）の勢いをそのままぶつけて、任天堂に対抗した。この中には「冬季ＣＥＳ93」で披露したユニークな入力装置「アクティベーター」用の新ソフト「バウンティ・ハンター」、人気キャラクターのソニックを使った新作「ソニック・スピンボール」などがある。

同社の小間には、映像シミュレーター「ＡＳ－１」、業務用ＴＶゲーム機「バーチャレーシング」（ジェネシス用ソフトも披露）など、業務用での実績も強調された。

最も注目されたのは家庭用で初のＶＲ（バーチャルリアリティ）装置で、セガ社は「ジェネシス」用の周辺装置「セガＶＲ」として、今回初めて公表した。しかし、これは同社小間の中の非公開ブースで披露されたもので、報道関係者以外は見ることができなかった。

「セガＶＲ」は、カラー液晶モニター採用のヘッド・マウンテッド・ディスプレイ（ＨＭＤ）を使用するが、価格はなんと二百ドル以下（約二万円）とされている。しかも「セガＶＲ」用ソフト「ニュークリアラッシュ」つきで、英国ＷＩ社の業務用「バーチャリティ」と比べると五百分の一ぐらいのお手軽価格となる。

セガ・オブ・アメリカ社のブースに出品されたセガ社「ＡＳ－１」と「バーチャレーシング」業務用（中央の人物は関係ない）

米国任天堂の巨大なブースの中に、スーパーＦＸチップ内蔵の新作「ＦＸトラックス」を披露

話題のマシン

4人まで同時プレイの格闘アクション

〃獣神〃に変身し

コナミ「メタモルフィックフォース」

TVアクションゲーム機「メタモルフィックフォース」が、コナミ㈱（本社東京、西村靖雄社長）から八月四日発売となる。

これは過去に四匹の獣神に倒された〃暗黒の魔王〃が復活し再び人類に襲いかかろうとするのを、〃獣神スピリッツ〃を受け継いだ四人の若者が阻止するという設定で、若者が獣神に変身し強力なパワーを身につけて戦うもの。画面はプレイヤーの動きに従って横スクロールする。八方向レバーと二つ（アタックとジャンプ）のボタンを操作。四人まで同時協力プレイ、途中参加、コンティニューも可能。

幻想的な背景画面の中、格闘を中心とした戦いを展開。二つのボタンを同時に押すとスペシャルアタックとなり、敵をつかんだ時にレバーとボタンで多彩な攻撃ができる。

〃女神像〃を取ると獣神に一定時間（獣神メーターがゼロになるまで）変身。ただしアイテムをうまく使うと人間に戻らずに戦い続けることも可能。ゲームはライフ制。基板販売のみでOP価格十七万八千円。

メタモルフィックフォース

「オーマイガァー!」基板

球体消すパズル

アトラス「ぱたぱたぱにっく」も

㈱アトラス（本社東京、原野直也社長）からTVパズルゲーム「オーマイガァー！」（OH MY GOD）が八月三日発売となる。またミニアップライト型のTV旗上げゲーム機「ぱたぱたぱにっく」が、七月下旬発売となった。

「オーマイガァー！」は、口のある球体が落下するのを四方向レバーと一つのボタン（早く落下させる）で操作し、同色のものを三つ以上並べて消していくゲーム。二人対戦プレイも可能。

球体は三個から最高十一個が連なって現れ、落下中にいろいろと組替えることができる。空中で同色を並べるとその場で消すことも可能で、さらに残った球体が落下した部分の列を同色に変えるので大量に消すチャンスとなるのが特徴。二人対戦プレイでは相手の落下球体を長くしたり、お邪魔球体を出現させたりしながら競い合う。このほか好きな球体を消すことができる〃ジャンプボーナス〃もある。球体が画面上部まで積み上がってしまうとゲーム終了。基板販売のみでOP価格十四万八千円。

「ぱたぱたぱにっく」は〃赤上げて〃〃白上げて〃などの音声の指示どおりに二本のレバーを上下させていくゲーム。画面上では怪獣や恐竜など（ステージによって異なる）が両手に紅白の旗を持ち、プレイヤーの操作どおりに旗を上げていく。設定回数以上失敗するとゲーム終了。三ステージをクリアすると景品カプセルが払い出される。幅五六センチ、奥行八〇センチ、高さ一六〇センチ。OP価格四十五万円。

オーマイガァー！

ぱたぱたぱにっく

スペイン製TVドライブ

多彩なコースで

シグマから「ワールドラリー」

スペインのガエルコ社製TVドライブゲーム機「ワールドラリー」が、㈱シグマ（本社東京、真鍋勝紀社長）から七月二十三日発売となった。

これは南ヨーロッパに設定されたコースをタイマー内に走破するもので、コースは四種類から選択。一コースが三ステージ構成で、計十二ステージある。左右への二方向レバーで方向、ボタン一つでスピードをコントロールする。ボタンは押し続けると最高速度で走行。

ステージごとにコースの状況が異なり、アスファルトやダートコース、夜間走行、雪の積もった坂道など多彩で、走る方向（画面スクロール）も縦、横、斜めとその都度異なり変化に富んでいる。また前方にコーナーや障害物があると、ナビゲーターサインが画面に表示される。各ステージは六十秒のタイマー制で、クリアしないとゲーム終了。基板販売のみでOP価格十四万八千円。

ワールドラリー

アテナ製TVシューティング

派手な攻撃展開

サミーから「大王」基板

㈱アテナ（本社東京、中村栄社長）製TVシューティングゲーム「大王」が、サミー工業㈱（本社東京、里見治社長）から五月末に発売となった。

これは八方向レバーと二つのボタン（ショットとボンバー）を操作しながら、画面上部から次々と出現する敵を撃破していくゲーム。縦画面で縦スクロールする。全部で七ステージ構成。二人同時プレイ、途中参加も可能となっている。

特定の敵を破壊するとパワーアップアイテムが出現し、ホーミングレーザー、広角バルカンなどを装備でき、派手な攻撃が可能。ステージは浮遊大陸、古代遺跡、海、宇宙空間、海上など多彩で、巨大メカ怪獣のようなボスを倒すとクリア。ゲームは持ち機数制。基板販売のみでOP価格十三万八千円。

大王

話題のマシン

ビデオシステムのカーアクション

カーアクション

「爆烈クラッシュレース」基板

TVカーチェイスゲーム「爆烈クラッシュレース」が、ビデオシステム㈱（本社京都、古川晃司社長）から八月上旬発売となる。

これはタイムを競うのではなく、ライバル車より先にゴールするか、ライバル車に体当たりを繰り返してダメージゲージ（ダメージを受けると減少）をゼロにすると一本先取したことになる、というバトルレースゲーム。全部で五ラウンドあり、一ラウンドは三ステージ構成。二方向レバーと二つのボタン（アクセルとブレーキ）を操作。二人対戦プレイ（海外用は三人）、途中参加も可能。

性能が異なる十台のマシンから選択。障害物を壊し相手の車にぶつけながら、道路以外のところも走行。ダイナミックな転倒シーンもある。途中で現れるお金を集めると、ステージ終了時にマシンを修理できる。市街地や雪道、密林など多彩な場面が展開。二本先取されるとゲーム終了。基板販売価格未定。

爆烈クラッシュレース

「バーニングライバル」基板

アニメ格闘試合

セガ社「VSバスケットボール」も

TV格闘アクションゲーム「バーニングライバル」が、㈱セガ・エンタープライゼス（本社東京、中山隼雄社長）から八月上旬発売となる。また同社からカーニバルゲーム機「VSチャンピオンシップ・バスケットボール」が七月下旬発売となった。

バーニングライバル

「バーニングライバル」はアニメグラフィックによる画面で、キャラクターのスムーズな動きに特徴がある。数年に一度、米国のある都市に猛者たちが集まり、ルールなき裏のトーナメントでの格闘試合が始まるという設定。キャラクターは女性一人を含む八人から選択。それぞれレスラーやキックボクサー、空手家、カンフーの達人のほか、忍者やアメフト選手などまったく異なる個性を持っており、独自の戦法と必殺技を駆使して戦う。八方向レバーと六つのボタンを操作する。二人同時対戦プレイ、途中参加（乱入）も可能。

一人用はコンピューターとの対戦で、一ステージ三ラウンド構成。ゲームはタイマーとライフを併用し、先に二ラウンド勝つとクリア、次の相手との対戦へと進む。場面は市街地、ビルの屋上、雪の降る中華街など多彩。相手を火で包んだり、画面狭しと飛び回ったりするが、動きは非常に滑らかだ。基板販売で定価二十二万二千五百円。

「VSチャンピオンシップ・バスケットボール」は、二人用のバスケットボール投げゲーム。前方にゴールが二つ付いている。シュートが決まると歓声とともにゴールリングやバックボードにランプが点滅するなどの演出がある。一ゴールで二ポイントだが、残り時間が少なくなると三ポイントになり対戦ムードを盛り上げる。幅一二一センチ、奥行二五九センチ、高さ二四〇センチ。プレイ料金、時間、ポイントなどは切替え可能。定価六十一万円。

VSチャンピオンシップ バスケットボール

子ども向け「スクールキッズ」

ミニクレーン機

サンワイズとセガ社から発売

㈱サンワイズ（本社東京、松下清社長）製の一人用ミニクレーン機「スクールキッズ」が、七月上旬発売となった。

これはセガ社との共同開発によるもの。スクールバスのフロント部分をデフォルメしたアイキャッチ効果のあるデザインで、子ども向けに操作ボタンを低く設置（高さ六五センチ）し、景品ボックス内も見やすく設計されている。操作は二つのボタンで行なう。イエローとピンクの二タイプがある。幅一〇八センチ、奥行九四センチ、高さ一六五センチ。OP価格六十四万八千円。

スクールキッズ

光線銃付き乗物

ホープ「サファリパニック」

定置型乗物機「サファリパニック」が、㈱ホープ（本社工場川崎市、小野定良社長）から三月以降発売となっている。

これは同社の光線銃による的付き乗物機シリーズで、二人乗り。キリンや鳥などをあしらった前方のボックス内で、大草原をバックにアイドルに襲いかかろうとする悪い動物たちを狙って、光線銃をレバーで動かしボタンで発射。命中するとターゲットが動き音と光で雰囲気を盛り上げる。前後の長さ二〇六センチ、幅一〇〇センチ、高さ一七〇センチ。定価百三十八万円。

サファリパニック

まるちかめらあいず MULTI CAMERA EYES No.206

H氏賞〈3〉

山川萬里

このところ、ずっと三月初旬の日曜、月曜日の朝刊の三面記事の頁のひとつ前の頁を、周市は注意深く、ごく小さな活字までひとつひとつ読むことが習慣になってしまった。

理由は、だいたい毎年その時期にH氏賞の受賞の記事が出るからだ。

いつもごくつつましやかに、受賞者の写真は載ることがなく、いっとう小さな活字で短い短い記事である。

最近はこの記事で受賞した詩集を知って本屋に注文しても殆んど入手出来なくなってしまった。

周市がH氏賞という賞が存在することを知るようになったのは、以前の職場で一緒に仕事をしていた福本さんの教えによるものである。

職場は大阪の山奥で、もう和歌山との県境にちかいところにあった。

社屋は小高い山の上にあり、だらだらと山道を下って、十数軒の商店街をぬけると私鉄の駅だった。

職場と商店街との間に雑誌を配達している、殆んど書籍は置いていない本屋があった。これがこの町（村？）の唯一の本屋である。

福本さんは毎年のように三月になると、この本屋に詩集名と出版社名を記したメモを渡して、H氏賞の詩集をとりよせていた。

「これを頼むわ」

「あまり聞いたことがない出版社ですね」

「新聞にはそう出ていたけどね」

「まあ注文は出して見るけど、くるかこないかは分りませんよ」

というようなあまり書籍をとり扱うのに気がない本屋とのやりとりがあった。

本屋の主人は小柄で鼠によく似た人で、スクーターに乗って雑誌の配達をしているのに出くわすと、スクーターが大きな大きな乗物に見え、スクーターのハンドルに主人がぶらさがっているような感じの人であった。

福本さんも小柄なほうでは本屋の主人に決してひけをとるような人ではなかったが、下腹などには立派な贅肉がつき、禿頭は艶をおびて妖に光ることがあり、ぎょろりと大目玉をむくこともあった。

横で二人のやりとりの様を見ているだけで周市はそこはかとないユーモアの気配にうたれ、明るく豊かな人生の時の流れをその雰囲気で感じとらされることが多かった。

その町には珈琲店がその当時二軒あった。一軒は古くから町のロータリーの噴水の横にあり、一軒は駅前に出来たばかりのビルにパチンコ店と同居していて、パチンコ店の隣に開店したものである。

福本さんは喫茶店の雰囲気と珈琲がだいすきで周市はよくそのお伴をした。昼食後にはロータリーの喫茶店に行った。時代を経て店全体が落ちついてしっとりとしていて二人ともこの店がよかったのだが、パチンコ店の隣の喫茶店は地の利にたけていた。

どうしてだか分らないのだが、福本さんは会社を休んだ日でもこの駅前の喫茶店までは必ずきて、周市に電話をかけてきた。周市も福本さんとの話は楽しいので、会社をぬけて福本さんに会いに出かけた。

その日には福本さんは駅前の喫茶店に行くまでに件の本屋で『東京午前三時』がきていたら、受取ってきてくれませんかと言った。

「きいたこともない小さな出版社だから危ないとおもっていたのに注文を出せば、ちゃんとくるものなんですね」

と変に感心しながら本屋の主人は、その年H氏賞を受賞した詩集を渡してくれた。

三木卓の『東京午前三時』だった。

黒っぽい表紙のB六判のこじんまりした本であったことも記憶している。

歴史が正確に堆積されている町であり、本屋の向いは奥まった場所に古びた草屋根の傾いた小さな家があって、家の前に井戸、その横に柿の木が一本はえていた。

その家のお婆さんはひとり住いだったが、小学校二年の女の子を貰い子して、周市が出勤する頃その女の子はいつも井戸水を馬穴に汲んで家まで運んでいた。

周市が出勤を続けている間に、その女の子は小学校を卒業し、中学校を卒業して近くの紡績会社に勤めるようになった。

その女の子は就職してからも、ずっと冬の雪の日も土砂降りの雨の日も、早朝井戸水を汲んでは家に運んでいたので周市の印象には深いものがある。

その後女の子は結婚して、その土地にセキスイハウスが建った。

気がつくとその女の子の産んだ子どもが小学校に通うようになっていて、周市は時の流れの速さに愕然とさせられた。

そういう町を通りぬけ『東京午前三時』を駅前のビルのパチンコ屋の隣の珈琲店に持っていった。

福本さんは今日は年休をとって難波で映画を見るといって、馬鹿に若やいだ赤っぽいブレザーでスポーティな装いをしてにこにこしていた。

「詩集は高いでしょう」

ふつうの単行本が二、三百円だった頃、たしか『東京午前三時』は約五百円だったとおもう。

周市はそれまでは詩については全集とか大系でまとめられている、ちょっと前の時代までの詩しか知らなかったので、いきなりその詩集の値段についてきかれても返答のしようがなかった。

その後、時々、福本さんが現代詩の話をしてくれるようになった。おずおずと非常に遠慮しながら。

H氏賞とはどういう賞かとか、戦後詩についてとか。

天牛という古本屋の前に五十円均一の棚があり、二人で難波に出てその店に立ち寄った際、福本さんはその棚から即座に、『四千の日と夜』という詩集をぬきとり

「これは持っていますか」

と言った。

「いいえ」

と答えると

「では買っておきなさいよ」

と有無を言わさず周市にその本を買わせた。

おもいかえせば『四千の日と夜』を買ってからであった。福本さんが戦後詩、荒地、日本列島、鰐、などに詩をかいている詩人について話しだしたのは。

AUGUST 15

Game Machine's Best Hit Games 25

■テーブル型ＴＶゲーム機 (TABLE VIDEOS)

	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
❶	—	サムライスピリッツ（ＳＮＫネオジオ） Samurai Shodown (SNK)	9.19
❷	—	タントアール（セガ社） Tant-R (Sega)	7.47
3	1	ストIIダッシュ・ターボ（カプコン） SFII・CE Turbo (Capcom)	7.33
4	3	ハットトリックヒーロー '93（タイトー） Hat Trick Hero '93 (Taito)	7.17
5	2	ぷよぷよ（コンパイル／セガ社） Puyo Puyo (Compile/Sega)	7.00
6	6	スーパーワールドスタジアム '93激闘版（ナムコ） Super World Stadium '93 Heavy Fighting (Namco)	6.67
7	5	プレミアーサッカー（コナミ） Premier Soccer (Konami)	6.38
8	4	ワールドヒーローズ 2（ＳＮＫネオジオ） World Heroes 2 (SNK)	6.04
❾	10	海底大戦争（アイレム） In The Hunt (Irem)	5.87
❿	—	マクロス II（バンプレスト） Macross II (Banpresto)	5.85
11	8	クイズ・チャンネルクエスチョン（中日本リース） Quiz Channel Question* (Nakanihon)	5.82
⓬	13	セイブカップサッカー（セイブ） Seibu Cup Soccer (Seibu)	5.81
⓭	15	上海 II（サン電子） Shanghai II (Sun Electronics)	5.70
14	12	クイズココロジー（テクモ） Quiz Kokorogy* (Tecmo)	5.64
⓯	16	クイズ人生劇場（タイトー） Quiz Life Theatre* (Taito)	5.58
⓰	19	戦国エース（彩京／バンプレスト） Samurai Ace (Psikyo/Banpresto)	5.57
17	7	魔法大作戦（ライジング／エイブル） Sorcer Striker (Raizing)	5.50
⓲	24	ゼロチーム（セイブ／日本システム） Zero Team (Seibu)	5.45
⓳	—	四川省 II（アイレム） Match It II (Irem)	5.44
20	14	クイズ学問ノススメ（コナミ） Quiz Gakumon No Susume* (Konami)	5.43
21	21	スーパーワールドコート（ナムコ） Super World Court (Namco)	5.36
㉒	26	天地を喰らう II（カプコン） Worriors of Fate (Capcom)	5.27
㉓	25	スーパー上海（ホットビー／タイトー） Super Shanghai (Hot-B/Taito)	5.24
24	9	マーシャルチャンピオン（コナミ） Martial Champion (Konami)	5.23
㉕	28	ストリートファイターIIダッシュ（カプコン） Street Fighter II Champion Edition (Capcom)	5.17

*The Traditional Japanese Games or Japanese Quiz Game, etc

評価 (RATING) 調査ロケーションの設置機種を売上げと人気度から見たランク付けで、各オペレーターの判断によるデータを集計、その平均値を示したもの。数字の意味は10：これ以上ない爆発的な人気と売上げ、9：すばらしい人気と売上げ、8：大変いい人気と売上げ、7：いい人気と売上げ、6：まあいい人気と売上げ、5：平均的なもの、4：平均以下(以下省略)

■アップライト、コックピット型ＴＶゲーム機 (UPRIGHT / COCKPIT VIDEOS)

	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
❶	—	エアコンバット（ナムコ） Air Combat (Namco)	8.60
2	1	アウトランナーズ（セガ社） Out Runners (Sega)	8.39
3	2	リーサルエンフォーサーズ（コナミ） Lethal Enforcers (Konami)	7.61
❹	—	ＮＢＡ ＪＡＭ（ウィリアムズ／タイトー） NBA JAM (Williams/Taito)	7.57
5	3	コカコーラ・スズカ８アワーズ（デラックス）(ナムコ) Coca Cola Suzuka 8 Hours (DX)(Namco)	7.56
6	4	タイトルファイト（セガ社） Title Fight (Sega)	7.35
7	6	キャプテンフラッグ（ジャレコ） Captain Flag (Jaleco)	7.19
8	5	バーチャレーシング（ツイン）（セガ社） Virtua Racing (Twin)(Sega)	6.94
9	9	コカコーラ・スズカ８アワーズ（スタンダード）(ナムコ) Coca Cola Suzuka 8 Hours (SD)(Namco)	6.83
10	7	バーチャレーシング（デラックス）（セガ社） Virtua Racing (Deluxe)(Sega)	6.79
11	10	ファイナルラップ 3（スタンダード）（ナムコ） Final Lap 3 (Standard)(Namco)	6.39
12	8	ラッキー&ワイルド（ナムコ） Lucky & Wild (Namco)	6.20
13	11	天地を喰らう II（カプコン） Worriors of Fate (Capcom)	5.67
14	13	レールチェイス（セガ社） Rail Chase (Sega)	5.55
15	12	スーパーチェイス（タイトー） Super Chase (Taito)	5.17

■麻雀ＴＶゲーム機 (MAHJONG VIDEOS)

	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
1	1	スーパーリアル麻雀 PⅣ（セタ／サミー） Super Real Mahjong PⅣ* (Seta)	6.59
❷	3	麻雀セーラーウォーズ（日本物産） Mahjong Sailor Wars* (Nichibutsu)	5.02
❸	5	麻雀革命II・プリンセスリーグ（ジャレコ） Mahjong Revolution II* (Jaleco)	5.00
4	2	所さんのまーまーじゃん（セガ社） Tokorosan's Mahjong* (Sega)	4.93
5	4	アイドル麻雀ファイナルロマンス（ビデオシステム） Mahjong Final Romance* (Video System)	4.60

■フリッパー (FLIPPERS)

	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
1	1	スターウォーズ（データイースト） Star Wars (Data East)	6.25
❷	3	ドクターフー（ミッドウェー） Dr. Who (Midway)	5.50
❸	—	ストリートファイター II（プリミア） Street Fighter II (Premier)	5.35
4	2	ホワイトウォーター（ウィリアムズ） White Water (Williams)	5.32
5	4	ロッキー&ブルウィンクル（データイースト） Rocky & Bullwinkle (Data East)	5.25

Overseas Readers Column

Asahi Seiko Settles Suit With Taiwan Counterfeiter

Asahi Seiko Co., Ltd., Tokyo, manufacturer of coin mechanisms, has proceeded with a legal action against Chang Yang Industrial Co., Ltd., Gaoxiong, Taiwan, which has produced unauthorized copies of Asahi Seiko's coin hopper "WH-1". Recently, however, the case has been solved since Chang Yang has totally apologized.

According to an explanation made on July 5 by Asahi Seiko, despite the fact that the company has a patent concerning the coin hopper "WH-1" in Taiwan, Chang Yang has manufactured, sold and exported its counterfeits. Informed of Chang Yang's deed, Asahi Seiko has inquired it, and in December 1992, upon consulting with a lawyer, Asahi Seiko accused Chang Yang patent infringement to the investigating authorities in Taiwan.

At the end of 1992, the investigating authorities in Taiwan raided Chang Yang's factory on suspicion of patent infringement, seized the evidences such as counterfeits, and asked Chin-Nan Chen, president of Chang Yang, to explain how to produce the counterfeits. Along with the raid, Asahi Seiko brought a civil suit, demanding for damages.

Chang Yang was prosecuted on February 23, and pled guilty on the court. Thus, Asahi Seiko decided to settle with Chang Yang on the following conditions: (1) Cang Yang scraps its mold for manufacturing counterfeits (this was carried out on May 19); (2) Chang Yang pays ¥1.5 million to Asahi Seiko for damages; (3) Chang Yang inserts an advertisement for apology in Taiwanese newspapers (this was carried out on May 24). On May 18, they have reached agreement of the settlement so that Asahi Seiko withdrew the accusation.

In 1991, Asahi Seiko USA, Inc., Las Vegas, NV, a subsidiary of Asahi Seiko, brought a suit before the US Federal District Court against Yiin Wang Industrial which had produced unauthorized copies of Asahi Seiko's coin hoppers "CH-500" and "DH-750", with the result that they reconciled since Yiin Wang apologized (see *Game Machine No. 427*). This time, Asahi Seiko showed a more aggressive attitude in that it resorted to criminal proceedings in Taiwan which is said to be the kingdom of copiers.

Nobuaki Arai, a staff in charge of legal affairs at Asahi Seiko, said: "Although it is anticipated that those who producing and selling counterfeits of our company's products will continue to appear, we'll take legal proceedings stricter than those taken this time."

Asahi Seiko's coin hopper "WH-1" is used in vending machines, money changers, etc., and has shipped more than one million units to date. It is one of the company's hit products.

Manufacturers Directory 1993

—— On page 12

Sega Teams Up With W. Industries For Its VR Game

Sega Enterprises, Ltd., Tokyo, and W. Industries, UK, have announced on June 30 that the two companies will jointly develop new hardware and software for coin-op virtual reality (VR) game. They said that this joint venture will harness W. Industries' pioneering technologies in VR developed over the last five years with Sega's commitment to advanced computer graphics (CG) hardware and software technology for interactive VR.

In March 1991, W. Industries unveiled the world's first coin-op VR game "Virtuality" in the U.K., and shipped the sit-down type "Virtuality 1000 SD", and then shipped the cyber space type "Virtuality 1000 CS" in November 1992. These are played by players with a head mounted display (HMD) in front of them while controlling the lever/button.

In Japan, Namco Limited, Tokyo, imported 4 units of "Virtuality 1000 SD" from W. Industries in June 1991, and tested them on its locations for about one year, being hotly talked about temporarily. In November 1991, Dentsu Prox Inc., Tokyo, was named an exclusive distributor of "Virtuality". Taito Corp., Tokyo, rented 2 units of "Virtuality 1000 CS" from Dentsu Prox, and tested them on its locations for 2 months from November 1992, but the operation income was smaller than expected.

Thus, just when "Virtuality" was almost going to pass out of people's memory, Empire Ltd., Osaka, has signed an agreement with W. Industries on exclusive distribution of "Virtuality". It is, however, said that, since Empire is quite unexperienced in the coin-op business, its sales plan may not be realized. Thus, according to Sega's spokesman, the current joint venture between Sega and W. Industries is a case which belongs to a level quite different from the already available "Virtuality".

According to Sega, the prototype of a product being developed through the current joint venture will appear in December 1993 at the earliest, and will be unveiled at the AOU Expo 94 (February 22–23, Makuhari Messe). The first model will be developed by both companies based on Sega's game concept by using the CG board "Model 1" which nearly corresponds to Sega's "Virtua Racing". Sega will undertake both manufacture and sales. Although HMD is used, it remains undecided as to which of W. Industries' HMD or Sega's newly developed HMD will be adopted, and they seem to be negotiating.

Premier Appoints Sammy

Sammy Industries Co., Ltd., Tokyo, has been appointed to the exclusive distributor in Japan for the pinballs of Premier Technology, USA, in place of Taito Corp. It was agreed upon on June 25 in Tokyo between Hajime Satomi, president of Sammy Industries, and Steve Kaufman, executive vice president of Premier Technology. Sammy Industries will commence shipment of pinball "Tee'd Off" in Japan (from August).

"Gottlieb" brand pinballs had been developed and manufactured by D. Gottlieb & Company (reorganized into Mylstar Electronics, Inc. in 1983) until its closure in 1984. Since then, Premier Technology has taken over "Gottlieb" brand on pinballs alone. In Japan, since along time ago, Taito has imported and exclusively distributed "Gottlieb" pinballs.

This time, the agreement between Taito and Premier Technology fell on a renewal period, and Sammy has long proposed to obtain exclusive rights in place of Taito, and succeeded in agreeing with Premier Technology. Taito is distributing pinballs of "Bally" (currently manufactured by Midway Mfg.) and "Williams" brands, in place of Sega which had exclusively distributed them.

Premier Technology is shifting the development emphasis from conventional pinballs for street location to feature-priority pinballs for arcade location, including the first such product "Tee'd Off" in whose development Premier Technology has concentrated much energy. At a press conference, Steve Kaufman said: "Both companies have taken a very exciting step. This was a correct resolution." He also said that, following "Tee'd Off", the company will develop "Graduater", a pinball whose theme will be a water sport (the name is not yet fixed), "Zoro" and "Friday on the 13th".

Minoru Suzuki, managing director of Sammy Industries, said: "we would like to import about 210 ~ 350 units of each title of Premier Technology's pinball. Also, by trading in used machines from operators, we would like to export them to overseas markets which need them."

He also revealed that Sammy Industries has also decided to exclusively distribute Midway Mfg., Co.'s arcade game "Hot Shot". All these products will be exhibited on Sammy Industries' booth and Williams Electronics' booth at JAMMA Show 93 (August 26–28, Makuhari Messe).

Editor: *Masumi Akagi*
Amusement Press, Inc.
18-2, Doyamacho, Kita-ku,
Osaka, 530 Japan
faxphone (81) 6-314-3821

※筐体の仕様外観及び画面写真は、改良のため予告なく変更する場合がございます。

メダルゲーム機の設置運営につきましては「メダルゲーム場運営基準」を守ってご使用下さい。

㈱タイトーは、ウィリアムズ社/ミッドウェイ社/バーリー社の日本国及び台湾を除く東南アジア地区総代理店です。 ©TAITO CORP. 1993.

株式会社タイトー®
本 社:〒102 東京都千代田区平河町2-5-3
TEL:(03)3222-4808